

平成27年第15回教育委員会定例会

開会年月日 平成27年8月7日(金)
場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 教育長 河 口 浩
同 委 員 外 松 和 子
同 委 員 内 藤 幸 子
同 委 員 安 藏 誠 市
同 委 員 長 島 良 介

議 題

1 議案

- (1) 議案第37号 練馬区立中学校教科用図書の採択について

2 陳情

- (1) 平成19年陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について
〔継続審議〕
- (2) 平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書〔継続審議〕
- (3) 平成23年陳情第19号 都市計画道路に伴い大泉第二中学校が直面している問題に関する
陳情書〔継続審議〕
- (4) 平成23年陳情第20号 子ども達を放射能汚染、特に内部被曝から守るための陳情書
〔継続審議〕
- (5) 平成25年陳情第8号 「大泉第二中学校を分断する道路計画(素案)の撤回・見直しを求
める」陳情書〔継続審議〕
- (6) 平成25年陳情第9号 都市計画道路補助135号線の整備計画(素案)の抜本的見直しを
求める陳情〔継続審議〕
- (7) 平成26年陳情第1号 都市計画道路補助第135号線整備計画(素案)の撤回を求める陳
情〔継続審議〕
- (8) 平成26年陳情第2号 特別支援学級での肢体不自由児への対応を求めることについて〔継
続審議〕
- (9) 平成26年陳情第5号 東京都特別支援教育推進第三次実施計画に基づく特別支援教室モ
デル事業の経過を公開させ、情緒障害等通級指導学級における教育
の充実・発展を求める陳情〔継続審議〕
- (10) 平成27年陳情第6号 情緒障害等通級指導学級での指導の存続と情緒障害児教育の充実・
発展を求める陳情〔継続審議〕
- (11) 平成27年陳情第7号 中学校歴史・公民教科書採択に関する陳情〔継続審議〕
- (12) 平成27年陳情第8号 平和と近隣諸国と友好善隣を育む歴史・公民教科書の採択を求める

陳情書

3 協議

- (1) 平成27年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価について〔継続審議〕

4 報告

- (1) 教育長報告

その他

その他

開 会 午前 10時00分
閉 会 午後 2時28分

会議に出席した者の職・氏名

教育振興部長	中 村 哲 明
こども家庭部長	堀 和 夫
教育振興部参事教育総務課長事務取扱	岩 田 高 幸
教育振興部教育企画課長	伊 藤 安 人
同 学務課長	山 崎 泰
同 施設給食課長	三ッ橋 由 郎
同 教育指導課長	堀 田 直 樹
同 学校教育支援センター所長	風 間 康 子
同 光が丘図書館長	加 藤 信 良
こども家庭部参事子育て支援課長事務取扱	小 暮 文 夫
こども家庭部こども施策企画課長	柳 橋 祥 人
同 保育課長	櫻 井 和 之
同 保育計画調整課長	近 野 建 一
こども家庭部参事青少年課長事務取扱	中 里 伸 之
こども家庭部練馬子ども家庭支援センター所長	吉 岡 直 子

教育長

ただいまから平成27年第15回教育委員会定例会を開催する。

案件に入る前に、本日の審議環境についてご説明させていただく。

本日の会議については、傍聴を希望される方が多数いらっしゃったため抽選を行った。抽選の結果、本日は18名の方がこの教育委員会室において傍聴されている。また、傍聴のための抽選に当たらなかった方にも控室を用意し、その部屋にもこの会議室での審議の様子を音声として放送している。適切な審議環境を守るため会場を変更することはしないが、より多くの方に本日の審議の様子をお伝えするため、控室での音声放送とい

う形で事務局として設定させていただいた。各委員にご異存がなければこのまま進めてまいりたいと思うが、いかがか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、このまま審議を進めてまいりたいと思う。

では、案件に沿って進めさせていただく。本日の案件は、議案1件、陳情12件、協議1件、報告1件である。

まず本日の会議の進め方についてお諮りする。議案第37号、練馬区立中学校教科用図書採択については、案件の最後に審議を行いたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

- (1) 平成19年陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について〔継続審議〕
- (2) 平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書〔継続審議〕
- (3) 平成23年陳情第19号 都市計画道路に伴い大泉第二中学校が直面している問題に関する陳情書〔継続審議〕
- (4) 平成23年陳情第20号 子ども達を放射能汚染、特に内部被曝から守るための陳情書〔継続審議〕
- (5) 平成25年陳情第8号 「大泉第二中学校を分断する道路計画（素案）の撤回・見直しを求める」陳情書〔継続審議〕
- (6) 平成25年陳情第9号 都市計画道路補助135号線の整備計画（素案）の抜本的見直しを求める陳情〔継続審議〕
- (7) 平成26年陳情第1号 都市計画道路補助第135号線整備計画（素案）の撤回を求める陳情〔継続審議〕
- (8) 平成26年陳情第2号 特別支援学級での肢体不自由児への対応を求めることについて〔継続審議〕
- (9) 平成26年陳情第5号 東京都特別支援教育推進第三次実施計画に基づく特別支援教室モデル事業の経過を公開させ、情緒障害等通級指導学級における教育の充実・発展を求める陳情〔継続審議〕
- (10) 平成27年陳情第6号 情緒障害等通級指導学級での指導の存続と情緒障害児教育の充実・発展を求める陳情〔継続審議〕

教育長

では陳情案件である。

平成19年陳情第4号から平成27年陳情第6号までの10件の陳情については、事務局より新たに報告される事項や大きな状況の変化はないと聞いている。したがって本日は継続としたいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。

(11) 平成27年陳情第7号 中学校歴史・公民教科書採択に関する陳情〔継続審議〕

(12) 平成27年陳情第8号 平和と近隣諸国と友好善隣を育む歴史・公民教科書の採択を求める陳情

教育長

次の陳情である。

平成27年陳情第8号、平和と近隣諸国と友好善隣を育む歴史・公民教科書の採択を求める陳情書である。この平成27年陳情第8号については、本日新たに提出されたものである。事務局より読み上げをお願いする。

事務局

事務局である。平成27年陳情第8号、平和と近隣諸国と友好善隣を育む歴史・公民教科書の採択を求める陳情書である。陳情者は記載のとおりである。

記書き以下、項目を読み上げさせていただく。

1、日本人子弟に自国を大切に思う心で平和と近隣諸国を尊重する情操を培い、在日韓国子弟との友情を育むうえで最適な教科書を採択して下さい。

1、特定の政治的思想、宗教、歴史観に偏ることなく、公正中立な観点から、各教科書を比較検討して頂き、教育現場の教員、そして保護者や学校のOBらの声をできる限り反映した、公正かつ民主的な方法で教科書を採択して下さい。

以上である。

教育長

本日は、中学校教科書採択に関する陳情である、この平成27年陳情第8号と、前回から継続審議となっている平成27年陳情第7号について審議を行い、結論を出したいと考えている。なお、これらの陳情については複数の陳情項目があるが、全て教科書採択に関するものなので、審査の進め方については、各項目についてご意見を伺った上で、採択または不採択の判断については、項目ごとではなく各陳情全体について総合的に判断する一括審査としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。

それでは陳情の審査に入る。まず、平成27年陳情第7号である。項目1、歴史分野について、各委員のご意見をお寄せいただければと思うが、いかがか。

内藤委員

私の認識では、教科書の採択に当たっては、学習指導要領に示されている各教科・分野の目標等を最もよく踏まえている教科書を選定する等の観点から調査・研究をするとなっていたと思う。そこで質問だが、歴史分野と公民分野について、学習指導要領ではどのように記載されているのか、確認のために教えていただきたい。

教育指導課長

ただいまご質問があった歴史的分野・公民的分野に関する学習指導要領の目標等の記述について、こちらの陳情の項目ごとに説明を申し上げる。

まず1番、歴史分野の「日本史と世界史がバランスよく記述されており、アジアにおける日本の歴史的な位置づけや欧米と日本の歴史的関係等が理解できるような記述となっているか」についてだが、中学校学習指導要領では、我が国の歴史の流れを世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえ理解させることが、歴史的分野の学習の中心と記載されており、アジアや欧米のように地域を限定しているものではない。

続いて2番、「それぞれの時代の為政者(支配者)の視点だけでなく、民衆(被支配者)の視点もふまえて記述され、歴史を複眼的な視点から捉えているか」についてだが、中学校学習指導要領においては、さまざまな資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てるとしており、生徒が身につけるべき望ましい能力と態度について示されている。

続いて3番、「アジア・太平洋戦争の記述において、被害の事実とともに加害の事実にも目をそらさず、近隣諸国条項を考慮した記述内容となっているか」という点についてだが、こちらについて学習指導要領では、中国などアジア諸国との関係などを通して、軍部の台頭から戦争までの経緯と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させるとしている。ただし、中学校学習指導要領解説社会編においては、我が国が、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、各地への空爆、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、我が国の国民が大きな戦禍を受けたことなどから、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させ、国際協調と世界平和の実現に努めることが大切であり、このことに気づかせることが大切であると記載がされている。

続いて公民分野についてである。4番の、「日本だけを中心に据えた記述ではなく、世界の中における日本の立場について、世界的視点からの理解ができるような記述内容となっているか」についてだが、中学校学習指導要領においては、地球的規模の課題を解

決するために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとなっている。

続いて 番、「憲法の位置づけや立憲主義の意義・重要性が理解できるような記述となっているか」についてだが、中学校学習指導要領では、民主的な社会生活を営むためには法に基づく政治が大切であることを理解させ、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせると示されている。ただし、中学校学習指導要領解説社会編には、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせた上で、このことについて、日本国憲法が最高法規であることに着目させ、法の意義および法に基づく政治の理解を踏まえ、日本国憲法に基づく政治によって、国民の自由と権利が守られ、民主的な政治が行われるということについて考えさせることを意味しているとの記載がある。

続いて 番、「日本国憲法の、『国民主権』、『平和主義』、『基本的人権』などの概念について正しく理解できるような記述となっているか」についてだが、中学校学習指導要領には、日本国憲法が、基本的人権の尊重、国民主権および平和主義を基本的原則としていることについて理解を深めるとの記載がある。

続いて公民分野の 番、「現政権の考え方や方向性だけに過度に偏ることなく、多様な意見や世論があることを理解できるような記述となっているか」についてだが、中学校学習指導要領においては、主権者として政治に参加することの意義について考えさせることを主な狙いとしているとの記述になっており、陳情に述べられているような記述はない。以上である。

内藤委員

ありがとう。

教育長

今説明があったので、参考にしていただければと思う。公民分野や、2項目目以降についてでも結構なので、ご意見などをお寄せいただければと思うが、どうか。

内藤委員、今のご説明でいかがか。

内藤委員

この陳情では、歴史分野で3項目、公民分野で4項目の観点が挙げられている。今の説明をお聞きすると、公民分野の についてはそのとおりだと思うが、他の部分についてはかけ離れているものもあるし、微妙に違っていたり、限定的な表現が使われているということがどの項目にも言えると私は受け取った。このため、この陳情については改めて採択することはないと、結論を申し上げてしまったが、そのように思っている。

教育長

他の委員の皆さんはいかがか。

長島委員

私も内藤委員と同じく、この陳情の内容は限定的になっている部分が非常に多いと思う。学習指導要領にもあるように、広い視野でということは意識して採択するべきだと思うので、内藤委員と同じ意見である。

教育長

ほかの委員はいかがか。

外松委員

私も、今いろいろと説明を伺ったり、教科書を読ませていただいたりしている中で、この陳情者の方がおっしゃっている内容は、特に公民分野のほうは、かなり見方が限定的であるように感じた。学習指導要領の目標にかなった教科書が検定の合格を得ているわけなので、限定的な考え方のこの陳情に関しては、採択するというわけにはいかないと思う。

安藏委員

今、皆さんが話されたことに同感である。やはり国の検定を通っている教科書であるため、そういった意味ではどれも問題はないのではないかと考えている。そういった意味では、この陳情の中にはやはり少し偏りが見受けられるので、その点で不採択でよいのではないかと考えている。

教育長

各委員からご意見をいただいた。私も一言お話をさせていただいた上で皆さんにお諮りさせていただきたいと思う。

教科書の採択については、ご承知のとおり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、あるいは練馬区立中学校教科用図書採択要綱などに基づいて、教育委員会の権限と責任において総合的な観点から公正中立の立場で採択を行っている。今、この陳情が、一つ一つ見て、やはり限定的なお考えの中で出ているというご意見を各委員からいただいた。また、この陳情は特定の問題を取り上げてそれを考慮した教科書をとというようなご意見なわけだが、今申し上げた観点からも、私もこの陳情については不採択にせざるを得ないかなと考えている。

それではお諮りする。教科書採択については、教育委員会の権限と責任において総合的な観点から公正中立な立場で採択を行っているわけである。特定の問題を取り上げて、それを考慮した教科書を採択するように求める本陳情については、不採択としたいと思うがいかがか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、平成27年陳情第7号については不採択とする。

次の陳情案件である。先ほど読み上げがあった平成27年陳情第8号についてである。2項目出ているが、それぞれ各委員のご意見があればお寄せいただきたいと思うが、いかがか。

この陳情については、先ほど事務局から陳情項目を読み上げていただいたが、実際には項目だけではなくて、その前に前文が書かれている。その中には特定の教科書会社を捉まえての意見が書いてある。先ほどの陳情に対する私どもの基本的な考え方からすると、特に皆様方にご異存がなければ、従前の平成27年陳情第7号と同様の観点から、この陳情についても不採択とさせていただきたいと思うが、いかがか。

外松委員

その前に少し言わせていただきたいと思う。

この陳情者は、特定の政治的思想、宗教、歴史観に偏ることのないようにと心配をされて陳情の2点目に書かれている。しかし、今までも説明があったように、この教科書採択に関しては、練馬区立学校教科用図書採択要綱に基づき、練馬区の中学校教科書協議会から答申を受けている。その答申のメンバーには、校長先生、副校長先生、それから主幹教諭の方や保護者の方も入っている。また練馬区中学校教育研究会からの意見もいただいている。調査委員会からの研究報告書や東京都の調査報告書もある。また、区民の皆さんに関しては、学校教育支援センターが行った展示会でご意見もいただいている。学校教育支援センターには、迅速に対応していただき、皆様のご意見を即、資料として原文のままいただいている。このように、さまざまな資料を拝見しながら、この教科書採択に当たっては検討・研究しているという状況である。そのような現状を知っていただきたい。

教育長

ほかにご意見がもしあればお寄せいただきたいと思うが、いかがか。よろしいか。

それでは、先ほど申し上げたとおり、教科書採択については、教育委員会の権限と責任において総合的な観点から公正中立な立場で採択を行っている。特定の問題を取り上げて、それを考慮した教科書を採択するよう求める本陳情に関しては、不採択としたいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、平成27年陳情第8号については不採択とする。

(1) 平成27年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価について〔継続審議〕

教育長

次に協議案件である。

協議(1)平成27年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価についてである。この協議案件については本日のところは継続とし、次回以降に協議を行いたいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、この協議案件については継続とさせていただきます。

(1) 教育長報告

その他

その他

教育長

次に教育長報告である。

案件表に記載はないが、本日は「その他」として、平成27年度練馬区立中学校生徒海外派遣の帰着について、口頭でご報告させていただきます。

教育振興部長

平成27年度の練馬区立中学校生徒海外派遣の帰着について、口頭で恐縮だが報告させていただきます。派遣期間だが、去る7月25日土曜日から8月1日土曜日までの、機中1泊を含む7泊8日の派遣であった。

派遣生徒人員である。練馬区内中学校第2・第3学年の生徒68人を予定していたが、1名が出発前に体調不良のため不参加となり、生徒は67名、それから私を含む引率教員等14名の、合わせて81名で、オーストラリアのクイーンズランド州イップスウィッチ市ほかへ行って来た。生徒は、5泊6日のホームステイをしながら市内のハイスクール5校に分かれて、4日間、通学した。海外での生活・学習を直接体験し、また練馬区とイップスウィッチ市の友好親善を深め、8月1日に全員無事に練馬区に帰着したところである。本日午後に事後研修会を行い、8月28日に解団式を予定している。この解団式をもって本年度の海外派遣研修は終了となる。以上で終わる。

教育長

無事に帰着したという報告があった。何かご意見、ご質問があればお寄せいただきたい。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは報告案件を終わる。

(1) 議案第37号 練馬区立中学校教科用図書の採択について

教育長

それでは議案に入らせていただく。議案第37号、練馬区立中学校教科用図書の採択についてである。

来年度から使用する中学校教科用図書、すなわち教科書について、本日採択を行う。この教科用図書の採択は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定により、教育委員会の職務権限と定められている。採択に当たって、教育委員会では4月に中学校教科書協議会に諮問を行い、7月16日開催の第10回教育委員会臨時会において同協議会から答申を受けた。教科書協議会、調査委員会など、答申の作成に関係された皆様に対し、教育委員会を代表して御礼申し上げます。ありがとうございます。

教育委員会では、この答申を受けて、各委員それぞれに教科書の調査・研究を行ってきた。そこで本日は各委員から種目ごとに、推薦する図書の発行者名を発言していただき、審議してまいりたいと思う。

審議の順番だが、教科書の発行に関する臨時措置法第6条第1項に規定される教科書目録に示されている順番、すなわち国語、書写、社会(地理的分野)、社会(歴史的分野)、社会(公民的分野)、地図、数学、理科、音楽(一般)、音楽(器楽合奏)、美術、保健体育、技術・家庭(技術分野)、技術・家庭(家庭分野)、英語、この順番で審査を行いたいと思う。

次に、種目ごとの教育委員の発言順序についてお諮りする。本日は全部で、今申し上げた15種目の教科用図書を採択するが、最初の種目である国語については内藤委員から行き、その後は種目ごとに最初の発言者を、安藏委員、長島委員、外松委員、そして再び内藤委員から行うという順序で進めたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただきます。

なお、12時になったところで、そのときの進みぐあいを見て、休憩をとるかどうかが改めて判断させていただきたいと思うので、よろしく願い申し上げます。

それでは進めさせていただきます。

まず国語である。内藤委員から発言をお願いします。

内藤委員

私は三省堂を推薦する。

その理由としては、まず三省堂の教科書は他社に比べ、特にどのような力をつけるためにどのように学ぶのかということを重視し、すぐれた学び方を大変具体的かつ簡潔に

示していると思う。例えば、各学年の巻頭に、各教材でつきたい力が明確に示されている。また、教材ごとに学習課程が見開き2ページにわたり「学びの道しるべ」としてわかりやすく示され、それが一貫している。内容もよく、説明も箇条書きや図で示すなど具体的でわかりやすく、紙面構成や色使いも工夫されていると思う。また、全体的に学習活動が受け身ではなく、体験的活動が多く取り入れられ効果的だと思う。文章で説明するよりも、実践的な新しい方法を図や表などで示して体験させることで、生徒の興味と関心を喚起し学習意欲を高めると思う。

さらに巻末の資料編も大変充実しており、すぐれていると思う。1の「読書の広場」では、読書ガイドス、見て楽しむ、声に出して読む、古典を楽しむというように、分野ごとに図書を紹介している。「考え方の広場」では、「読む力を高めよう」として読み方のわざやコツを17項目紹介し、「学ぶ力を高めよう」として具体的・実践的・斬新な学習方法を多数紹介している。これらの資料を有効活用することで、生徒は多様な学び方を身につけることができると思う。また、国語科のみならず、各教科の学習や生活のさまざまな場面で役立つすぐれた資料になっていると思う。大いに活用できると思うので、三省堂を推薦する。以上である。

安藏委員

私も内藤委員と同様、三省堂を推薦したいと思う。

三省堂と東京書籍で悩んで、甲乙つけがたい感じがした。両教科書とも単元学習の流れが簡潔でわかりやすく、書く、話す、聞くのバランスもよい印象を受けた。両教科書とも見やすく感じたが、特に三省堂は文字の背景色や強調などで工夫されており、大変よいと思った。また、現在も練馬区立中学校で使用されている三省堂を今回も同じように推薦したいと思う。以上である。

長島委員

私も三省堂を推薦する。

理由としては、生徒が非常に興味を持ちやすいという印象を受けた。読み物が非常に多いのだが、書くことについても具体的に指導方法が出ていたりするため、先生も使いやすいのではないかと。また、単元ごとに本の紹介がされているところが非常に学習に効果的なのではないかと思った。現在、三省堂の教科書を使っていることもあり、引き続きこちらでよろしいのではということで、三省堂を推薦させていただく。

外松委員

まず国語科の学習だが、国語科は全ての教科を学ぶときの基礎となる教科であると言えると思う。生きる力を育むための基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得して、それを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育てていく土台の教科である。

光村図書、教育出版、三省堂は、それぞれによさがあり、絞るのに大変悩んだが、三省堂を推させていただきたいと思う。三省堂は、国語の目標である、国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることを意識した教材の構成であ

ると感じた。

話す、聞くは、第1学年での目標である。まず聞き上手、話し上手になるためのスピーチを挙げている。ここでは図や表を活用し、そのやり方について具体的に示されている。2つ目の教材はチームの力を引き出す質問、3つ目は、理論で迫るか感情に訴えるかの討論ゲーム。4つ目の「まとめ」では、1年間の自分とクラスを振り返って、各活動も入れたグループ新聞の作成と発表へとされており、ステップを踏み、丁寧な取組で、聞く能力、話す能力を身につけていくことができる教材であると感じた。よい質問はコミュニケーションを活発にし、みんなの思いや考えが深まるものであると思う。

続いて書く教材だが、調査によると練馬区の子供たちは、書く学びをやや苦手としているというような結果も出ている。書く教材の1つ目、レポートの書き方では、課題設定の仕方がステップを踏んで丁寧に示されており、書くことが不得手の生徒も抵抗なく取り組んでいけそうであると感じた。この課題設定は、書く上ではかなり重要なポイントである。書くことに苦手意識のある子供は、まず何を書けばよいのかで悩み、先に進めない傾向があるという。最後は、レポートにまとめるまで、図や表を使って理解を図り学習を進めることができるようになっている。このレポート作成というのは、他教科でも課題をまとめるのに必要となる表現活動である。ここで基礎的なことをしっかりと学び、生かしていったほしいと思った。また、書くことの2つ目で、学校行事を案内するリーフレットづくりが挙げられている。構成図が非常にわかりやすく、意欲喚起へとつながるものだったと思った。3つ目は鑑賞文。葛飾北斎の富嶽三十六景の駿州江尻を鑑賞例として学ぶ。具体的に鑑賞のポイントを示し、原文も載せられている。学んだ後は、提示された鑑賞作品の中から1つ作品を選び、自分で鑑賞文を書き、友達と交流するようなつくりとなっている。4つ目は意見文。例文として、日常生活の1こまから、バスの優先席についての意見文がある。5つ目はグループ審議。話す、聞くの教材とも連動しており、新聞のレイアウト例も掲載されている。資料として、新聞用語、ミニ事典もあわせて載せてあった。

古典教材は「古典に学ぶ」のタイトルで、初めに解説「月を思う心」、その後、「竹取物語」、古典の仮名遣い、故事成語、漢文の読み方と続いている。「竹取物語」は10ページを掲載し、他社より原文が多くなっている。終わりには資料として、江戸時代に刊行された「竹取物語」を写真掲載している。また、書かれた時代の位置づけが意識できる帯状の縦年表も載せてある。作品の参考出展の明記もあり、現存する日本最古の物語であることも記載されている。また、この終わりには、「私の本棚」として、「竹取物語」に関連する本が写真入りで3冊紹介されていて、学びの発展につながるようになっている。第1学年で国語の基礎をしっかりと身につけることができるつくりとなっていると感じた。

最後に教育出版の教科書のことでも少し述べさせていただく。第1学年に「言葉と仕事」のタイトルで、水泳選手のコーチである平井伯昌氏が、「言葉の上達は競技を上達させる」との1文を載せている。氏は文中で、言葉に出すとは客観的に明確に自己分析せざるを得ないと記しており、大変深い言葉であると感じた。他社の、私が推薦しない教育出版であるが、このようなよい文を載せている出版社にも敬意を表したいと思った。以上である。

教育長

皆さん図らずも三省堂ということである。

練馬区の中学生については、学力調査を見ると、今、長島委員や外松委員からも話が
あったように、やや、記述面というか書く分野、書く領域の達成度に課題がある。そし
てまた、自分の考えをわかりやすく伝える、論述するというような、表現力の育成が求
められている。そのような意味では、三省堂の教科書は、まず各領域の設定に62ペー
ジと、かなり多くのページを割いて、12の単元を設定している。意見文、手紙、鑑賞
文、小論文など、さまざまな言語活動の設計の工夫があり、また各単元には、平均して
5ページ程度を割いて、図表などを用いて丁寧な学習活動の説明がなされている。また、
表現力に直接結びつく、話す領域の設定についても、47ページを割いて8つの単元を
設定している。ここにもさまざまな学習活動の設定があって、討論、プレゼンテーショ
ン、パネルディスカッション、ブックトークなど、比較的なじみがあり汎用的で実践的
なものが取り扱われている。図表が多く用いられており、学習活動の行い方の説明も丁
寧であると思っている。東京書籍や教育出版の教科書も捨てがたい魅力があるが、以上
の理由によって、私としても三省堂の教科書を採用することに異存はない。

以上、各委員と私の意見を申し上げたが、何かもう一言言っておきたいということが
もしあればお寄せいただければと思う。特に各委員の意見に違いがないので、国語は三
省堂を採用するというところでよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、国語については三省堂を採用させていただく。
次に書写に移る。書写は安藏委員から願います。

安藏委員

書写は光村図書を推薦したいと思う。

教育出版も甲乙つけがたいと思った。本のサイズから教育出版はページにゆとりがあ
るため、資料や写真が多く、教科を進める上でわかりやすい感じがしたが、光村図書は、
毛筆の筆遣いがわかりやすく描かれていて、内容量とともにページの情報・配列も効率
よく、有効な活用がされていると思った。また資料も、学習を発展できる情報や写真な
どが多く、さまざまな表現活動を提示してあった。基礎・基本とともに、より学習が深
められる教科書だと思い、光村図書を推薦したいと思う。

長島委員

私も光村図書である。

特に筆の運びが書写の場合は重要だと思い、各社、見比べたところ、光村図書がやは
り一番見やすく、わかりやすくなっているという印象を受けた。写真や手本などといっ

たものもわかりやすく、特に図表なども効果的に使われているという印象を受けた。振り返りのページやコラムも子供たちの興味を引く内容になっていて、全体のバランスがよかったので光村図書を推薦させていただく。

外松委員

どの教科書も学習指導要領の目標にかなった作りであるが、その中でも三省堂を推したいと思う。

三省堂の教科書の作りだが、折り込みがなく、限られた面積の机の上で学ぶ生徒にとっては使用しやすい作りであると感じた。毛筆の初め、「楷書で書こう」の手本は「泉」の文字である。左ページには、今までの学びを確認する意味で、「筆遣いを確かめよう」が9項目設けられている。横画、折れ、はらい、点などである。また、毛筆で書くときの3つのポイント、穂先の向き、軸の扱い、筆圧について示している。改めて必要なことが意識でき、しっかりと学べるようになってきていると思った。第2学年で学ぶ行書は、行書の特徴と筆遣いを学ぶための提示として、丸み・終筆の形の変化、筆脈の連続、直接連続などがわかりやすく示されており、適していると思う。硬筆では、行書の連続、点画の変化・省略を直接教科書に書き込めるページもあり、使い勝手がよいと思う。手紙の書き方では、便箋・封筒の両方の書き方が示されている。縦書きだけでなく横書きの例も示されていて、全体の構成、文字の位置などが明示されており、日々の暮らしに生きて使えるようになってきている。日本伝統の言葉を用いた挨拶の例文も掲載されており、学習指導要領にかなっていると思った。また、手紙の書き始めと終わりに書く頭語と接語の例は、楷書だけでなく行書でも示してあるのもよいと思う。そのほか、荷物の送り状、のし袋や願書の書き方、掲示物、ノート、原稿用紙の書き方などのページもあり、生活の資料にもなり得るような構成になっている。卒業してからも手元に置いておきたい1冊であるとも思った。中学校における書写の授業実施は、現状では学校によりかなりばらつきがあるようだが、生徒にとって教科書は自分の学びの資料となる一面もあるのではないかと推察する。三省堂の書写は、毛筆・硬筆での行書の書き方が大変丁寧に示されており、自発的に学べ、資料としても活用できると思う。

感想になるが、情報機器を使う今の社会だが、手書きが必要な場面も多々ある。書写の授業を通し、日本の伝統文化のよさも意識として持って、書くことを暮らしに取り入れてほしいと思う。2020年には東京オリンピック・パラリンピックを迎える。海外の人は、文化としての日本の文字に憧れを抱いている人も多いように聞いている。書く体験は海外の方に大変喜ばれることも知り、そのような文化交流ができるとよいとも思っている。以上である。

内藤委員

私は光村図書を推薦する。

まず光村図書は、パソコンやメール全盛の時代に文字を手書きすることが少なくなった中、現在、活躍中の著名人の、文字に対するメッセージを掲載するなど、全体を通して、文字は単なる記号でないことや、手書き文字を大事に思う感性を育てようとする姿勢が強く感じられる。その上で、感性に触れる文字文化としての書写指導と、正確にか

く機能的書写指導との、両者のバランスを適切に図り、硬筆と毛筆の関係の扱い方も大変効果的でよいと思う。具体的には、1時間の学習課程が、見開き2ページで、学習内容、目標、課題、毛筆で書く、学習したことを生かして書く、学習を振り返り自己評価するなどの活動がパターン化され、色・マーク・位置なども統一されてわかりやすく示されている。また、教科書に直接書き込む活動も多く、内容・量とも精選され、授業時間の少ない教科書にとっては特に使いやすと思う。また、「学習の窓」や、筆遣い等のポイントの説明や図・写真が丁寧でわかりやすく、書写の基礎的・基本的事項が身につくと思う。さらに、3年生の書写指導は、現在、文字にかかわり活躍する人の言葉を載せ、キャリア教育を意識させたり、学んだことを正確に書く事例をたくさん紹介したりして、生徒の発達段階に適した構成になっていると思う。また、各学年の最後の「思い出」のページ「未来に向かって」は、生徒の心身の発達と文字の変化など、自分の成長が自覚でき、素晴らしい内容になっている。ぜひ活用してほしいと感じた。以上が主な理由で光村図書を推薦する。

教育長

三省堂と光村図書で分かれた。私は書写については、基礎的な技能を習得させるということと、学習したことを生活に活用させるということ、そして書写への興味関心を高めること、この3点の観点で選びたいと思い、それぞれの教科書を見させてもらった。総合的には三省堂がよいかと思っていたが、光村図書は確かに今回、中身的に随分工夫しているという印象があった。私としては光村図書がよいのではないかと考えている。三省堂を強く推薦された外松委員、いかがか。ご異議があればお出しただければと思う。

外松委員

先ほど申し上げたが、どこの出版社の教科書も学習指導要領の目標にかなったつくりなので、光村図書でよろしいと思う。ただ、三省堂の教科書のよさもお伝えしたいと考え、るる述べさせていただいた。

教育長

大変よく伝わったと思う。

それでは、私を含めて4人が光村図書、外松委員お1人が三省堂ということなので、教育委員会としては、今回は光村図書出版を書写の教科書として採択したいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。

次に社会である。社会は、地理的分野、その次が歴史的分野、その次が公民的分野、

最後に地図という順番で進めさせていただく。

まず地理的分野だが、長島委員からご発言をお願いする。

長島委員

私は帝国書院を推薦する。

練馬区中学校教育研究会の先生の意見の中にも、白地図など、みずから活用できるような工夫が施されているなど、みずからつくっていけるということが重要だとあった。その点については、私もそのとおりだと思い、そのような視点から各社の教科書を見て帝国書院を選んだ。ほかの会社のものも非常によくなっている印象があったのだが、帝国書院の教科書は特に写真や図表などが非常に読みやすく、ページの構成もよくできている印象を受けた。以上が推薦の理由である。

外松委員

地理的分野だが、世界のさまざまな地域、日本のさまざまな地域を学ぶこととなっている。世界の地域構成を学ぶために、地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域なども学ぶ。どの教科書もこのことを学ぶのに適した作りだが、私としては帝国書院を推させていただきます。

帝国書院は、鳥瞰的に見せる航空写真が多く、補足説明もあり、理解が深まるような作りになっていると感じた。資料は、非常に新しいものが多く掲載されている。多くの写真資料を学びの入り口とし、グラフや地図を活用して、学習課題を解決していく流れになっている。学習課題は、どのように、どのようなという言葉で提示されており、終わりが、「説明しよう」、「確認しよう」で、学習のまとめを文章で書きあらず活動もある。言語・表現活動を培う作りになっている。

「日本のさまざまな地域」の中の「日本の地域構成」の「領域の特色と変化について」は、我が国の海洋国家としての特色を取り上げるとともに、北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題にも着目させるようにすることと学習指導要領の内容の取り扱いで示されている。その領域と領土については、帝国書院は、「領域は1つの国の範囲である。陸地である領土、領土から一定の範囲である領海、領土と領海の上空である領空より成り立っている」とあり、説明が明快である。図もあり、理解が深まるようになっている。北方領土、竹島、尖閣諸島については、現状を理解するために、その歴史的経緯、各県に編入された年、ロシア・韓国・中国が不法に占拠している現状、それに対し日本がどのように対応しているかなどを、写真・図・年表にも載せ、説明している。他の教科書にも同様の表記があった。帝国書院は、北方領土に関しては1992年からビザなし交流が始まったと、交流の様子を伝える写真も載せている。教育出版は説明の結びに、対立を乗り越え、平和的解決を目指すことが重要であると結んでいた。

発展的な学習として、地震と津波、「どうして日本では地震が多いのだろう」がある。火山が多く、現在、火山活動が活発になっている地域もあり、大変公民的な課題であると思った。以上のことから帝国書院を推薦させていただきたいと思う。

内藤委員

私も帝国書院を推薦する。

その理由としては、まず教科書の随所に「技能を磨く」というコラムが段階的に設けられ、全体で25カ所もある。内容も大変すぐれ、充実しているので、地図の見方をはじめ地理の基礎的技能の定着を図ることができると思う。また、見開き2ページで学習課程がわかりやすく示されたり、各時間や各章の終わりにある「学習の確認」で、振り返りが書き込み式でできたりと、使いやすいよう工夫されていると思う。そのほか、生徒の思考や活動を促すために本文の説明は精選され、写真やグラフ、地図と資料が豊富に掲載されるなど、構成がすぐれていると思う。さらに、「未来社会をつくるために」として、参考コラムのテーマは、共生が7つ、環境が8つ、防災に関する事項が7カ所と大変充実している。どれも、未来を担う中学生にしっかりと学んでほしい喫緊の課題であり、テーマにふさわしい内容の資料が豊富で、子供たちの学習意欲を高め、よいと思う。

最後に、身近な地域の調査事例として我が練馬区が詳しく取り上げられている。全ての生徒にとって親近感があり、他の地域の例示よりも理解が深められ、よい調査活動が期待できると思う。以上が主な理由で、帝国書院を推薦する。

安藏委員

私も帝国書院を推薦したいと思う。

まず印象深かったのは、ページのレイアウトがすっきりしている点である。ページに写真や地図が多いにもかかわらず、内容量も多く、かつ読みやすく配置されていた。そして、地図も色の配色など見やすく感じた。また、導入の部分での写真が大きく載っており、興味が持てる。またトライアングル地図では、課題に自分なりにチャレンジするコーナー、そして「地域を探ろう」でさらに地理の学習を深めるようになっていて、よいと思った。また、今、内藤委員からもお話があったが、身近な地域の調査は練馬区が取り上げられており、子供たちにとって、地理への興味関心がより強くなる教科書ではないかと思った。以上である。

教育長

今回は帝国書院が人気があるようである。私も帝国書院でよいのではないかと考えている。

帝国書院の地理では、現代の社会問題も多く取り上げられている。写真資料で興味を引き、グラフや地図を活用して、学習課題を解決していく流れになっている。また、単元の終わりには「学習を振り返ろう」があり、単元で学習したことを文章で説明する活動と、自分の興味の広がり上げる活動が組み込まれている。さらに、毎時間の最後に、「説明しよう」、「確認しよう」で、1単位時間のまとめを文章で書きあわす活動がある。内容的にも、北方領土、竹島、尖閣諸島をはじめ、領土の範囲について過不足なく記載されている。以上の点から帝国書院がよいと考えている。

今回、地理的分野については、今、各委員から帝国書院というお話があった。社会の地理的分野の教科書については帝国書院を採択したいと思うが、いかがか。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。

それでは次に社会の歴史的分野である。これは外松委員から願います。

外松委員

歴史的分野の学習指導要領の目標には、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てるとある。歴史的分野の教科書が多くある中、教育出版を推させていただきたいと思う。

教科書を象徴するかのように、表紙のタイトルは「中学社会歴史」、その下にサブタイトルで「未来をひらく」。そして、写真が数枚載っている。錦絵に描かれた大阪天神祭り、若田光一さんら、国際宇宙ステーション長期滞在の9人のクルー、「源氏物語絵巻」、錦絵に描かれた愛知名古屋まつり、ベルリンの壁の崩壊などである。表紙裏の2ページには、歴史の中の言葉のタイトルで、世界と日本の21人の人物写真と言葉を掲載している。一部を紹介させていただくと、文明の起こり、古代ギリシャのヘロドトスは「エジプトはナイルのたまもの」、ルネサンスの大発見、コペルニクスの「地球の可動性を禁じるものは何もない」、平等なつながりと世界の平和を目指して、マンデラの「真の和解は、ただ単に過去を忘れ去ることではない」。また、鎌倉時代、鴨長明の「行く川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず」、大正から昭和では、昭和天皇の「耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍び、もって万世のために太平を開かんと欲す」などが挙げられている。また、近代の日本と世界、現代の日本と世界についての記載も、学習指導要領の内容をしっかりと捉えた記載となっている。各章の初めには、その時代を象徴する絵巻や写真を掲載し、下のほうには、日本、中国、朝鮮の年表もあわせて示されており、学びを助けるような構成になっている。

また、「歴史にアプローチ」では、えとや歴史の中のさまざまな単位、絵画資料の読み方、植物などを図や写真で説明し、生徒が興味関心を持って取り組み、学びを深めるようになっている。提示されている資料をつかみとるためのヒントとして「読み解こう」のコーナーがあり、示されているヒントを手がかりとして考えを深められるようになっている。また、話し合い活動につなげている節もある。歴史を掘り下げていくさまざまなテーマ学習の紹介がある。「郷土の歴史を探ろう」が5テーマ、「資料から歴史を探ろう」5テーマ、「人物から歴史を探ろう」7テーマ、「地域から歴史を探ろう」4テーマ、「世界から歴史を探ろう」3テーマの、計24のテーマである。このテーマ学習「世界から歴史を探ろう」では、2ページにわたり、中国・朝鮮半島の動き、日本の領土について取り上げている。竹島、尖閣諸島、北方領土は歴史的に日本固有の領土であること、粘り強く交渉中であることが明記されている。また、学習コラムとして、「歴史の窓」が

25本、設けられており、コラムを通して興味や関心が広がり、学びが深まるようになっている。各節の初めに学習課題が明確に明示され、終わりには振り返るコーナーがあり、学びを確認し発展・活用させるような設問を設定している。これにより話し合い活動もできると感じた。また、外国の人名・地名は、和名とは別に外国語の発音に即した読み方も表記されていた。以上のことから教育出版を推させていきたいと思う。

内藤委員

歴史的分野は特に各社の特色が出ていて、それぞれによさがあったと思ったが、私は総合的観点から見て東京書籍を推薦する。

その具体的な理由としては、まず歴史学習は新しく習う重要語句等が多い上、全体的に説明が詳しく難しくなりがちで、それを理解するだけでも生徒にとってはかなりの負担だと思う。その点、東京書籍は、本文に関連する希少な資料や写真を豊富に掲載し、生徒の思考を促し深めるものが多くあり、興味関心を喚起し、学ぶ意欲を高めると思う。また、事象に対する説明も比較的簡潔でわかりやすく、しかも客観的である点がよいと思う。また、見開き2ページを使って、左側のページに、前の時代の学習のまとめと振り返りを載せ、右側に次の時代について小学校の復習を載せ、その下に年表でいつの時代かを示し、その次のページの見開き2ページで、これから習う時代の特徴を大胆なイラストで描き、時代が概観できるよう紙面構成がなされるなど、常に歴史の大きな流れを生徒に意識させ、興味関心を高めるような工夫が、大変すぐれていると思う。

そのほか、1時間ごとの学習課程をわかりやすく示すなど一貫した構成となっているため、生徒にとって学習の見通しが立てやすくなり、学習方法の定着が図れると思う。さらに各章のまとめとして、課題解決力を育成するための調査学習の具体例が充実しており、また、「歴史にアクセス」などのコラムの内容が非常にすぐれていると思う。個に応じた学習や自学自習にも有効活用できると思う。以上が主な理由で東京書籍を推薦する。

安藏委員

私は教育出版を推薦したいと思う。

歴史的分野についてもそれぞれ特徴があり、よい点や悪い点があったが、その中でも育鵬社は写真や資料が多く、レイアウトもよく読みやすい教科書だと思った。また、それぞれ時代の起きた背景もわかりやすく、読んでいて興味関心を持てるような印象を受けた。ただし、歴史的分野では時代と出来事が結びつきやすいことが大切だと思った。教育出版は特に詳細年表と簡易年表があり、それぞれ年代が把握しやすいように細かく記載されている点、また簡易年表には学習課題が示されており、学習の目安になり、好感が持てた。以上の理由で教育出版を推薦したいと思う。

長島委員

私は育鵬社を推薦する。

歴史的分野の教科書は、やはり歴史の出来事をできるだけ客観的に読み砕いて伝えられることが必要だと考える。視点や言葉の使い方によっては大切な出来事が、偏った視点からでは偏った知識になってしまったり、大切な出来事について省略されてしまったり

ては正しい理解ができないと考える。このような視点で各校読ませていただいた。その中でもやはり育鵬社は情報量が多く、授業の時間や紙面の制限から、なかなか情報量が多いと大変かもしれないが、比較的コンパクトに要点を外さず、先ほど申し上げた大事なことをしっかりと伝えているのではないかと感じた。また、写真や資料の選定などもよく、配置・構成も他社に比べてよくできているという印象を受けた。育鵬社は戦争を肯定しているといった意見を多々受けているようなこともお聞きしていた。今回の教科書についてももちろんそのような点も注意して読ませていただいたが、私は全くそのようなニュアンスは感じられず、さきほど述べたよいところが印象に残ったので、育鵬社を推薦する。

教育長

それでは私なのだが、今回、歴史の教科書については、教科書展示会に来ていただいた方々の意見や、教育委員会に出された陳情あるいは要望書なども全部読ませていただいた。この歴史的分野については、次に審議する公民的分野と並んで区民の皆さんの関心が非常に高い分野だと思う。まず私の考え方を申し上げる。

まず歴史的分野の教科書を見ていく際には、学習指導要領における歴史的分野の目標をしっかりと押さえておきたいと思っている。4点あるのだが、先ほど1点目については外松委員がお話しいただいた。2点目として、歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重する態度を育てること。3点目として、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせること。4点目として、身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して、歴史に対する興味や関心を高め、資料を活用して多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。この4点が歴史的分野の教科の目標として位置づけられている。これらのことから、歴史の学習では、我が国の歴史と関連する世界の歴史を背景として、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など、他の時代との共通点や相違点に着目して各時代の特色を明らかにした上で、我が国の歴史を大きく捉えさせることが中心となる。加えて、我が国と諸外国との歴史や文化の深いかわりについて、生徒がみずから考えることができる内容や構成になっていること。学習の方法として歴史に親しみを持ち、歴史に対する関心を高めるために、調べ学習の機会や、自分で考えて学ぶ活動が多く設定されていることが望ましいと考えた。

これらの観点で具体的に各校の歴史的分野の教科書を見渡したとき、歴史的分野については8社の教科書があり、それぞれ読ませていただいて、それぞれにいいところもあり、悩ましいところもあった。その中で、私としては総合点で、現在も使用している教育出版の教科書がよいのではないかと考えている。

中学の歴史では、基礎・基本をしっかりと定着させて、さらに応用力をつけさせるために、みずから考える力をつけ、他の者との話し合いを通して考え方の違いを認め合いながら、学力の向上と人格の形成を図っていくことが求められている。学習指導要領の目標にもある、我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てるには、各教科における言語活動の重要性が極めて高いと思っている。一つ一つを見れば、内容に疑義を挟みたくなる

部分も実はあるが、総合的には学習指導要領の目標を過不足なく満足している教育出版を推薦したいと思う。

なお、先ほど長島委員が推薦した育鵬社について少し感想を述べさせていただきたい。育鵬社の教科書は、人物に焦点を当てた人物学習が中心となっている。見ようによっては、単に事象だけの記述より、生徒たちに身近に歴史を感じさせることにつながる気もする。ただし、いかんせん、取り上げられた人物の歴史事象の中には、一般になじみの薄い人物等も含まれている。限られた授業時数の中で大きな歴史の流れを理解させるといふ中学校の歴史的分野の目標から言うと、いささか細事にわたり過ぎてはいないかという印象を持った。また、各時代において課題学習を設定し、生徒みずからが興味や関心を高められるよう工夫されていて大変関心したのだが、なぜか中世のみ課題学習が設定されていなかった。また、各個人の調べ学習を促す場面は多いのだが、班やグループでの意見交換等の学習については特に触れられていないのは大変残念だった。今回、育鵬社の教科書は、前回の認定教科書と比較してもバランスがよく、内容も充実していると感じただけに、少し残念な気がする。

さて、以上、私の考えを申し上げたが、歴史的分野については、教育出版を推す者が3名、東京書籍を推す者が1名、育鵬社を推す者が1名と分かれている。もし追加のご意見があればお出しいただきたいと思う。特に内藤委員と長島委員にはご意見を頂戴できればと思うが、いかがか。

内藤委員

育鵬社のことについて少し触れたいと思う。現代の青少年は自己肯定感が低いとよく言われている。そのことは、自分の国に対する肯定感も薄いということにつながる傾向になるのではないかと考えている。生徒が、自分の国、我が国を好きになり、誇りを持てるような視点から、日本のよさを、先ほど教育長はなじみの薄い人物というようなことだったが、そういった視点から、埋もれていた人物、皆さんにあまり知られていないような事例等を紹介するということが、これはまた大事なことであり私は思っている部分がある。これは歴史的分野の教科書に限らず、どの教科書においても、やはり日本人としての誇りが持てるような事例が挙がっているのは望ましいという観点で、教科書を採択する仕事をさせていただいている。

教育出版についても、先ほど外松委員から、タイトルのつけ方が大変よく、そのときの時代の特色をあらわす言葉を使っているという話があったが、私も前回も今回もその点については大変よい点だと思っているので、教育出版になるということには異存はない。

長島委員

私も内藤委員と同じ意見である。育鵬社に関しては、他の教科書に比べて、歴史を否定的に捉えるのではなくて肯定的に捉えており、自己肯定感により、日本という国に生まれてよかったと思う子供たちが増えていくことで、いろいろな問題が解決に近づいていくのではないかとずっと考えていた。もちろん戦争を否定したりといったことは大切なことではあるのだが、やはりいろいろな問題にも理由があって、その理由

を全て知った上で、自分で判断できることが大事だと思った。今回、育鵬社はそのような点ではすぐれていると思った次第である。

ただし、ほかの教科書を見比べていた中で、私も教育出版がその次には事実について一方的に捉えず正確に歴史を伝えていると感じた。なので、教育出版でも問題はない。

教育長

ほかの委員さん、よろしいか。

確かに、今、内藤委員がおっしゃったように、育鵬社の教科書は何か新しい視点を与えてくれたような印象を私も持った。これから注目していきたいとは思っている。

今、お二方からのご意見もいただき、練馬区教育委員会としては、この社会（歴史的分野）については、一番推薦の多かった教育出版を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

ではそのようにさせていただきます。

続いて公民的分野である。内藤委員から願います。

内藤委員

私は東京書籍を推薦する。

その理由としては、まず、公民というわかりにくい分野の学習に対し、生徒に興味と関心を持たせるための工夫が大変すぐれていると思った。例えば、本書全体の各章や各節の導入に、「スーパーマーケットから見た現代社会を見てみよう」のように、生徒の身近な物や人や事から現代社会の課題が捉えられるよう、さまざまに工夫している。また随所に「公民にアクセス」というコラムがあり、本文の補足説明や関連事項が5カ所も掲載されている。内容もホットな情報が多く、興味を引くものであり、公民の学習を理解する上で効果的であると思う。また、難しい言葉に対する生徒の抵抗感をなくし、その意味が理解できるよう、さまざまな手だてが講じられている。例えば、各章の初めでは、小学校で学習した重要語句と中学校の学習との関連を図り、各章の終わりでは、重要語句の意味の理解力や重要語句の活用力や課題解決能力の確認ができるような工夫がされている。また、巻末の資料に、重要語句の読み方や説明、その他の資料の内容が、質・量とも大変充実していると思う。このように、重要語句の理解を通して確かな学力の定着が図れるよう、さまざまな工夫をしていると思う。さらに、学習課程が明確に示されたり、本文が簡潔で写真等の資料が多かったり、その内容・サイズともに適切だったりと、わかりやすいようさまざまに工夫され、生徒の学ぶ意欲を高めると思う。以上が主な理由で東京書籍を推薦する。

安藏委員

私は、公民的分野は育鵬社を推薦したいと思う。

公民的分野の教科書でも、教育出版と帝国書院は、どちらもよいなという印象は受けている。教育出版は学習の流れがつかみやすく感じて、また各章で興味関心が持てそうな教科書であり、そして見やすさが非常にいい印象を受けた。また、帝国書院の教科書は、学習の課題を捉え、「確認しよう」、「説明しよう」で大切な事項を再確認し、「クローズアップ」で関連している事例などを紹介してあった。興味関心を持てるようになってよいと思った。そして、育鵬社だが、歴史的分野の教科書でも感じたが、まずページのレイアウトの関係から非常に見やすい印象がある。また、近隣国との問題も解説を通して理解できるようになっており、現代社会の問題も取り上げるなど、興味関心を広げ、公民をより身近なものに感じられると思った。以上で、育鵬社を推薦したいと思う。

長島委員

私も育鵬社を推薦する。

歴史的分野と同様になってしまうのだが、各単元で学ぶべきことが非常に明確で、他社に比べて客観性が高いもの、表現が使われているという印象を受けた。情報量も非常に多く、写真や資料やデータも見やすくわかりやすいのではないかと思った。あとは、イラストを非常に効果的に使っていて、非常に興味を持ちやすいつくりになっているというのが印象的である。巻末にもプレゼンテーションの作成があり、こういったものも後々役に立つのではないか。全体的に興味を持って学習に取り組めるきっかけになる教科書ではと感じた。以上である。

外松委員

公民的分野の学習は、地理的分野、それから歴史的分野の学習の基礎の上に学びを展開していく、そういう学習教科であると思う。学ぶ内容は大きく4つあり、1、私たちと現代社会、2、私たちと経済、3、私たちと政治、4、私たちと国際社会の諸課題である。育鵬社は表紙裏の2ページを使って、「私たちを取り巻く課題」のタイトルで、14の写真とその説明を掲載している。初めて学ぶ公民的分野のイメージがおぼろげながら湧いてくる、大変よいつくりであると感じた。各社を、7社あるのだが読ませていただき、最終的には私は東京書籍を推させていたいただきたいと思う。

東京書籍は、各章の初めに2ページを使って、その章で学ぶおおよそのイメージが湧くように工夫された問題が提示され、「やってみよう」につなげ、問題意識を持って学習活動に入っていく、そのような構成になっている。そして、節の初めに学習目標が示され、節の終わりには、その時間に学習した内容を確認したり深めたりするようになっている。また、学習を深めるための作業や活動の勧めもある。効率と公正のマークは、今までに学んだ物の見方や考え方を、ほかの章で学ぶとき意識化したり活用したりできるように工夫されていた。各章に「深めよう」のページがある。取り上げられているのは、伝統文化の検証、共生社会、アイヌ民族と先住民族の権利、東日本大震災からの復興と防災・仙台市を例に考える、公害のない社会へ・水俣市を例に考える、貿易の自由化と日本。「やってみよう」、コンビニエンスストアのお弁当を企画しよう、そして日本のエネルギーのこれから。最後にはパレスチナ問題と中東和平である。このように多くのこ

とが取り上げられていた。また、本文の学習を深めるため、個人やグループで行う作業や活動が20項目、本文での学習を詳しく説明したり写真を掲載したりし、関連する内容を取り上げているコーナーとして、「公民にアクセス」が50項目ある。国際社会における国家では、国家を構成する国民・領域・主権を理解させた上で、北方領土や竹島の領土問題、尖閣諸島について、歴史の流れを踏まえ、日本の領土であることを詳しく説明している。巻末には日本の無形資産が紹介されており、また参考法令集として28法令・宣言を掲載している。日本国憲法は、右側に言葉の解説を載せ、理解を助けるつくりとなっていた。最終章にはまとめとして、持続可能な社会をテーマにし、レポートを作成させ、探求の方法を確認するように構成されている。取り組みやすいレポート例も掲示してある。これからの社会参加へとつながる、公民としての資質の育成の狙いを、この最終章で確認するつくりになっていると感じた。以上のことから、私は東京書籍を推させていたきたいと思う。

教育長

私だが、公民的分野については、現代社会についての見方や考え方などの学習が充実しているか。また、生徒みずから考えることができる内容や構成であるか。そしてまた、調べ学習の機会や自分で考え学ぶ活動が多く設定されているか。この3点を主要な観点として比較した。その結果、東京書籍と教育出版の2社で悩んだ。

特に現代社会についての見方や考え方などの学習が充実しているかということなのだが、東京書籍は、家族や地域、国等のさまざまな社会集団の中で生きていくための考え方として、対立と合意・効率と公正について、さまざまな事例を通して学習できるよう工夫されていると感じた。さらに全単元を通して、対立と合意・効率と公正の見方や考え方を活用して、生徒が考えられるよう、教科書を構成している。また、生徒みずから考えることができる内容や構成であるかということに関しては、東京書籍は各単元の学習課題を明示し、学習の見通しを立てられるようにしている。各単元の最後に振り返り事項を1つ取り上げ、基礎的・基本的な知識の習得ができるよう工夫している。各単元の最初に、学習課題に関連する図や写真、イラスト等の資料を提示して、イラストの人物を使って考え方のヒントを示し、生徒みずから学習課題に取り組めるよう構成されている。

次に、調べ学習の機会や、自分で考え学ぶ活動が多く設定されているかという点に関しても、東京書籍は、各単元で学習した内容に関連して生徒みずから課題を設定して取り組めるよう、コラムを設け説明している。また、個人だけでなくグループで話し合ったり考えたりするコーナーを設け、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていくよう工夫している。

全体を見渡す中で、今は申し上げなかったのだが、教育出版もすぐれた点はたくさんあった。ただ、全体の中では、総合的には、私は東京書籍を推したいと思う。東京書籍は、日本と世界の政治・経済・社会を考察できる広い視野を持ち、よりよい社会の一員として社会に貢献するように編集してある。また、教科書があくまで主要な教材であり、生徒は教科書を学ぶのではなくて教科書で学ばわけである。幾ら個別に充実した記載があっても、現場の教師が個別の点のみを強調するような授業であってはならないわけで、

あくまで生徒たちに、広い視野で物事を考え、それを表現し、他者の意見にもしっかり耳を傾けられる、まさに学習指導要領で重視されている言語活動が充実しているものを選びたいと思っている。東京書籍は、言語活動を取り上げている箇所も多く、多様な活動が用意されていると感じた。

さて、全体を見ると、東京書籍が3人、育鵬社が2人である。意見が分かれているので、もし追加のご意見等々があったらお寄せいただければと思うが、いかがか。

安藏委員

私としては、できればというつもりで育鵬社を推薦したが、東京書籍で特にだめだという考えはないので、東京書籍でいいと思う。

教育長

長島委員はいかがか。

長島委員

ほんとうに甲乙つけがたいという中で、特に抽出して選んでいるところもある。他の委員の方がおっしゃるようなところも非常に評価できると思うので、東京書籍でよろしいかと思う。

教育長

育鵬社は2票入ったわけである。育鵬社については、昨今のいささか権利偏重の時代にあっても、しっかりと国民の義務や公共の福祉の大切さを示している点、あるいは国際社会において日本が直面している問題を正面から見据えようとする姿勢などについては、そういう意味では、一つ一つの内容を見ると、私にとってもうなずくところの多い教科書であった。しかし一方で、あまり主張が前面に出ると、生徒が能動的学習を回避してしまって、ただ教科書に記載された事項を受け入れるだけに終わってしまうのではないかという思いがあった。先ほど外松委員が、扉のところの14課題というのがとてもよいとおっしゃったのだが、実は私は逆で、あまり課題を先に提示することが、公民の授業のときにどうなのだろうかと思った。むしろ、生徒にとっての課題というものは、やはり自分たちがさまざまな事柄と出会うことによって気づいて深めるものであって、初めから、これが課題であると示されても、追求する学習にはならないのではないか。調べて、みんなと議論して、そして他人の意見を聞くことを通して、日本社会の課題は何かということをつかんでほしいと思い、若干、違和感があったところでもある。

まとめてよろしいか。

今、お二方からも最終的なご判断のお話があった。練馬区教育委員会としては、社会の公民的分野については東京書籍を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それではそのようにさせていただく。
次は地図である。安藏委員から願います。

安藏委員

地図は帝国書院を推薦したいと思う。

地理的分野でも帝国書院を推薦したが、地図と地理的分野の会社は同じほうが、ある意味ではリンクしている部分もあってよいのではないかと思った。また、地図の配色が、帝国書院のほうが見やすく感じた。文字についても、背景の色に埋もれないように太さなども考慮されており、また地図の表示で、地形および地形の高低が、配色によって示され、また等高線も含めた表示になっており、地図としての基本を押さえていると思った。単元では学習のポイントが示され、振り返りや「確認しよう」で、さらに学習が高められる、よい教科書だと思う。以上である。

長島委員

帝国書院を推薦させていただく。

グラフや写真、図表等の資料が、東京書籍に比べて帝国書院が圧倒的に多いのに、全く煩雑になっていなくよくまとまっている。その他のデータ、資料の数も上回っているのだが、同様のことが言える。特に地形の様子がわかりやすい。工夫された絵が用いられていたり、写真の文字がきれいで設定がすばらしいと思った。図表なども工夫されていて読みやすく、地図の目的を超えてさまざまなことがわかったり興味を持ったりする内容になっており、非常によくできているという感じを受けた。地理的分野に関しても帝国書院を推薦させていただいたので、あわせて地図も帝国書院を推薦させていただく。

外松委員

地図帳は、東京書籍と帝国書院の2社だけだが、どちらも資料が豊富で地図帳としてよくできていると思う。だが、私は帝国書院を推薦したいと思う。

地図は地理を学んだり、それから歴史的分野を学んだりするときに、手元に置いて学びを確認したり深めるために必要な資料である。帝国書院の地図帳は、開いたとき、陸を取り巻く海の水深や陸地の高低が俯瞰的につくられており、この地図帳を見て、海の深さや陸地の高さを立体的に感じ取ることができるようになっている。これは生徒にとっては大変わかりやすいのではないかと感じた。また、記載してある国々、都道府県の範囲、境界が視覚的に非常にわかりやすくなっている。視覚的にはっきり識別することができるというのは、地図を使用する上で大変大切なことであると思う。また、位置や大きさを理解する上で、ある程度の範囲を示していくことは必要なことだが、その点にも考慮された、全体像を把握しつつポイントを認識していくつくりとなっていると思った。また、資料の掲載内容が大変豊富で、地形、気候、国土利用の状況、資源、産業、貿易の現状、人口や交通、生活や文化、歴史などについて、グラフ、写真、図で非常に多く示されており、学習の理解を深めることができるようになっている。地図帳の場合は、授業に使用するのはもちろんだが、生徒個人が自主的に興味関心のあるとこ

るを調べたり確認するために活用することも多いのではないかと思う。ニュースや話題、読書などから、また家族や友人と旅をするときなどに、調べる、確認するなど、さまざまなシーンが考えられる。今の時代、スマートフォンで調べることも多いかと思うが、地図帳は大局的に捉えることができる。大いに活用してほしいと願っている。以上のことから帝国書院を推薦したいと思う。

内藤委員

私も皆さんと同様、帝国書院を推薦する。

その理由は主に4点ある。まず地形図の山地や平地や海など、陸の高さや水深をあらわす色のコントラストがはっきりしていて、その特徴を生徒がイメージしやすいと思う。また、日本全図が折り込みの6ページを使ってあらわされ、特に日本の領土の位置関係が理解しやすくなっているのも、大変よいと思う。また地図の横に、歴史や産業、暮らしなどの、その他の教科に関連する資料や課題なども示され、多様な学習活動が展開できるよう工夫されている。特に、鳥瞰図を豊富に掲載し、課題をわかりやすくしたり、絵、図、写真、表およびグラフ等の資料の取り上げ方が的確であったりと、さまざまに工夫されている。例えば、人工衛星から見た富士山の写真。高さを2倍に強調してあるが、それと同じような構図の富士山の浮世絵を対比させた資料など、興味を引くものが多く掲載されている。さらに、各種統計資料等が豊富で、学習内容が多面的に理解できたり深く学べるようになっていたり、また巻末の統計も色分けで読みやすくなっているなどすぐれていると思う。特に個に応じた学習に活用できると思う。

最後に、「地図を見る目」や「やってみよう」などの学習コーナーも工夫され、苦手な生徒にも、地図を見るときに観点や活用の方法がわかりやすく示されているので、地理的技能的向上が図れると思う。

このように、貴重な情報満載の地図帳および資料集として、他教科や自学自習や日常生活にも幅広く活用でき、大変すぐれた図書だと思う。以上の理由で帝国書院を推薦する。

教育長

地図は帝国書院を皆さん推しておられる。私も帝国書院と東京書籍を比較した場合、先ほど来、委員さんがおっしゃっておられるように、とりわけ高さ・深さが色分けされており、その辺のところ非常にメリ張りのきいた表示になっている。そのようなところはさすが帝国書院の地図だなという思いもしているので、帝国書院でよいかと思っている。

それでは、皆さん一致しているので、地図については帝国書院を採択するというところでよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。
続いて数学である。これは長島委員から願います。

長島委員

数学は東京書籍を推薦する。

子供たちが、まず数学は少し難しいなと思う苦手意識を持っている場合があるので、興味を持ちやすいような工夫がなされていることが必要なのではと思った。そういった意味で、特に側注が東京書籍は工夫されている。そこでよくある間違いが取り上げられていたり、間違い直しのページなどがあつたりと、視点と工夫が非常に効果的だという印象を受けた。あとは、表やグラフの使い方が全体的によかった。先生方にとっても教えるのに使いやすいのはないかという印象を受けたので、東京書籍を推薦する。

外松委員

どの教科書にするか大変悩んだ。というのは、特に第1学年の正の数・負の数が、今の啓林館でどうなのかという思いが少しあり、悩んだ。その結果、私は学校図書を推薦したいと思う。

最初のページに、「この教科書を使って学習する皆さんへ」とあり、数学は世界の人々に広く通じる共通語であり、科学技術の発展や環境分野の改善など、私たちが生きるために必要なさまざまな課題に取り組むときの、科学の言葉なのだとして記されており、数学の学びに広い視野があることのメッセージとなっている。小学校でやや算数に苦手意識を持っている生徒に新しい考え方を提示しているとも捉えることができる。

この教科書の学習の進め方だが、まず目標が示され、クエスチョンにはタイトルと手がかりとなる問題、次に例題、考え方、問い、深めるためのコラム、クローズアップと、段階を踏み、丁寧な学び方が示されている。第1学年の、先ほど申し上げた正の数・負の数の説明でも、導入に際して、目で見てわかるように、数直線を使用して考えるようになっていて、わかりやすいのではないかと思った。また、見出し語の色、重要な式の色などがすっきりとして、目に入りやすい作りである。さらに、確実に身につけるための問題、「確かめよう」のページは、左サイドに全てヒントが掲げられている。「クローズアップ」は、学習した事柄に関連した話題や問題を取り上げ、生徒の疑問に答える工夫となっている。ページの側面に、奇数・偶数の章で、色分けされた爪があり、学ぶ場所が探しやすいつくりになっていた。単元によっては、関連する職業、仕事のマークが示されていて、数学の有用性も知ることができるようになっていて、7章、資料活用の前のページに、振り返り、「算数から数学へ」というものが1ページ設けられていて、小学校で学習したさまざまなグラフが導入として示されている。既習の学びを想起して新しい学びへと結ぶつくりになっていた。「伝える」のマークがある課題は、話し合いや説明活動が数学でもできるようになっている。これは現場の先生に応えるものではないかと感じた。巻末の「さらなる数学へ」で共同学習のページがある。ここでは、「表現する力を身につけよう」、レポートの作成、そしてレポート例、発表の仕方、「調べてみよう」などがある。学習指導要領の数学の目標の一つである、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断しようとしたりする態度を育てるのに

かなっているのではないかと思った。以上の点から学校図書を推薦したいと思う。

内藤委員

私は東京書籍を推薦する。

その理由としては3点ある。まず1点目は、生徒に数学に対する有用感を持たせ、数学のよさを実感させ、学ぶ意欲を高めることが大変大切だと思っている。そのための工夫が東京書籍は大変すぐれていると思う。例えば、各学年、各章ごとに、日常生活の身近で興味を引きそうな事柄、例えば1次方程式の利用では、合唱コンクールの公開に係る制限時間の計算を題材にして導入を行い、授業を展開する構成になっている。また、巻末の「学びを生かす」では身近な生活問題を考えさせたり、「社会とつながる」では社会や職業における数学の活用例を示したり、その他、数学の有用感を持てるよう、さまざまな工夫がされている。このことで生徒にとって数学が身近になり、学習意欲を高めることができると思う。2点目だが、1時間の学習課程が簡潔に示されたり、紙面もシンプルだったり、例題の説明も丁寧だったり、その他さまざまに、わかりやすくなるよう工夫されている。特に側注にある、「ちょっと確認」、「もっと練習」、「誤答例」などは、学習内容の理解・定着を図る上では大変参考になることだと思う。3点目には、全体を通して、各節の終わりには基本の問題、各章の終わりには基礎の確認問題と応用問題がある。また、巻末には小学校の算数の振り返りや、中学校での数学の補充問題や活用問題が用意されるなど、全体構成がはっきりしている。習熟度別指導や自学自習等で活用されることができると思う。そして、確かな学力の定着を図ることができるのではないかと思い、東京書籍を推薦する。

安藏委員

私は啓林館を推薦したいと思う。

数学の教科書については、各教科書とも非常に優劣つけがたい内容であると思った。啓林館の推薦理由だが、まず、とじ込みの別冊のマスナリーブック。これは、各章で学習していくのに関連した内容が別冊になっていて、学習が進めやすく、いろいろな視点での例があり、選択して使えるツールだと思った。また、説明が理解しやすい印象を受けた。それぞれの章には、節の扉から始まり、「広げよう」で考え方を発展させ、学んだことを確認する学習の流れがつかみやすいと思う。数学も、現在使用されていることも含めて、啓林館を推薦したいと思う。

教育長

私も啓林館を推薦する。

数学では、1点目として、練馬区の生徒がやや苦手としている応用問題にどう対処していくか。2点目として、基礎・基本の定着のために繰り返し学習するための工夫はなされているか。3点目として、とかく数学は何のために勉強しているのかわからないと言われるが、数学の有用性について実感させる工夫がなされているかの観点を重視した。

啓林館の教科書では、「みんなで話し合ってみよう」や「自分の言葉で伝えよう」、あるいは「自分の考えをまとめよう」など、言語活動を取り入れた表現力の育成を図る項

目があり、全国学力調査B問題に対応できる工夫がある。また、章の基本の確かめにおける側注では、その章で学習した内容の問いかけと、振り返るとよいページが記載されていて、自学自習の助けになる工夫もある。さらに、先ほどもあったが、マスナリーブックという別冊の巻頭において、数学を活用している人たちというのが見開きで紹介されていて、社会や職業における数学の活用例が示され、数学の有用性を実感できる工夫がある。他の教科書も、東京書籍をはじめ、それぞれ工夫が凝らされていて甲乙つけがたいわけだが、現在使用している啓林館がよいのではないかと私としては思った。

さて、皆さんのご意見は、東京書籍が2名、啓林館が2名、学校図書が1名となって、かなり意見が分かれている。さて、どうするか。外松委員、何かご意見があればお話しいただきたいところだが、いかがか。

外松委員

啓林館と学校図書でどちらにしようかと非常に悩んだ。練馬区は現在、啓林館を使っている。啓林館が系統立てて、子供たちの基礎学力がつくように編集・構成されているというのは今までに感じている。また別冊があり、より一人一人に寄り添うように、自主的に学べるというよさがあることも感じている。なので、ここで、もし東京書籍にかえるか、または今までどおり啓林館にするかという話になったときは、生徒のことや指導される先生方のことなど、いろいろ考えると啓林館がよいと思う。

教育長

大変、苦渋の選択を強いてしまったようで申しわけなかったが、外松委員が啓林館でよいのではないかということになると、啓林館が3人になる。内藤委員と長島委員、いかがか。

内藤委員

私、個人的には東京書籍が全体がわかりやすく、子供たちにとって活用しやすいのではないかという思いは大変強い。東京書籍が一押しなのだが、2番目としては啓林館と思っていた。皆さんの意見が啓林館のほうに傾いているようなので、私としても、今使っていることもあるということで啓林館でも結構かなと思う。

長島委員

私も、東京書籍の印象が非常に他社に比べてよかったので推薦させていただいたわけだが、ただ啓林館は今まで使われていて、一定の効果が得られているということは伺っているので、全く問題ないのではないかと思う。

教育長

それでは、いろいろとご意見もいただいたが、数学については、現在使用している啓林館を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それではそのようにさせていただきます。
ちょうど12時である。理科まで行いたいと思うのだが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、理科が終わったところで休憩をとらせていただきたいと思います。
理科については外松委員からお願いする。

外松委員

理科だが、理科の学習は、第1分野で、身近な物理現象、それから身の回りの物質、電流とその利用、化学変化と原子・分子、運動とエネルギー、化学変化とイオン、科学技術と人間を学ぶ。第2分野では、植物の生活と種類、大地の成り立ちと変化、動物の生活と生物の変遷、気象とその変化、生命の連続性、地球と宇宙、自然と人間を学ぶことになっている。どの教科書も、各学年、項目の順序は違っても、もちろん学ぶ分野の数は同じである。私は、啓林館と東京書籍のどちらもそれぞれによさがあり、大変悩んだ。啓林館の魅力は、別冊としてマイノートがある。使い方はさまざまであると考えられるが、自主的に学ぶ生徒にとっては大変よいと思った。啓林館で少し難しいと感じたのは、実験のステップが非常に細かく、8つ程度のステップを踏んでいる。細かいことはよいことなのだが、示されている学び方で実験を行ったり、ほかのことも学ぶというのは、かなりの基礎学力や理解力が備わっている必要があり、少し難しいのではないかと感じた。そこで私は東京書籍を推させていただきますと思う。

東京書籍は、観察に必要なもの、例えばルーペや顕微鏡などの観察器具、用具その他の資料など、写真が大変はっきりしていて鮮明である。このことは学習する上で生徒にとって非常に参考になると思った。また、練馬区の小中学生の学習に関する調査から、理科に関しては、小学校時代は好きな児童が大変多いが、中学生になると理科が好きな割合が下がる。小学校時代、理科のどんなところが好きか。それは実験が子供たちは好きなのである。小学校では理科の実験は2時間続きで行われ、補助の先生もついての授業である。だが、中学校になると、50分授業の中で全て行わなくてはならない。このような現実から、練馬区の中学生在が小学校時代と同じように引き続き理科を楽しく意欲的に学ぶにはどの教科書がよいのかという視点でも選ばせていただいた。

東京書籍の実験は、実験の目的、実験の方法、結果の見方、考察のポイントとなっており、観察後、観察の目的、観察の方法、結果の見方、考察のポイントと、シンプルである。50分授業の中で実験を行う。そのプロセスで新しい学びに感動したり学びを深めたりしていくことを思うと、このようなシンプルな学習課程のほうがよいのではないかと考えた。また、水中の物体に働く上向きの力というところでは、結果を表にまとめ

るわけなのだが、直接教科書に書き込めるようなつくりになっている。時間内に記録できる配慮を感じた。東京書籍は中学校の授業時間を考慮したつくりであると私は捉えた。理科というのは学ぶ内容も深く、少しずつ専門的になってくる。日々の暮らし、そしてこれからの暮らし、地球のことなど、大变身近だが幅の広い分野である。中学生たちが興味を持って学んでいってほしいと願っている。

内藤委員

私は東京書籍を推薦する。

その理由としては次の3つである。1つ目は、このところの学力テストの結果からは、練馬区の生徒は他教科に比べ、理科が課題となっている。この課題の解決には、まず理科に対する有用感、科学に対する有用感を実感させ、学ぶ意欲を高める必要があると思う。本書では、例えば各単元や各章の最初の写真は、身近で意外な題材や世界の不思議な現象を取り上げることで、思わず何かと引き込まれるほど興味深くきれいな写真が多く、生徒に興味関心を持たせるのに大変効果的だと思う。また、単元末の「日本の科学」では、現代社会における日本の科学技術のすばらしい活躍が多数紹介され、生徒が日本への誇りや将来への希望を持つきっかけになると思う。このほかにも、全体を通して、生活と科学が結びつく話題を多く掲載するなど、科学に対する有用感や学ぶ意欲を高める工夫が大変すぐれていると思う。

2つ目は、全体を通して、課題解決学習の方法が統一され、ページのどこを見れば何が書いてあるのかがわかり、生徒が学び方をマスターしやすいよう工夫されている。特に、科学的事象に対する課題の持たせ方がすぐれ、実験や観察の手順のポイントの説明も簡潔で、写真や図も大きく適切である。生徒は、何の目的で何をどのようにするのがよくわかり、学習の見通しが立ち、主体的に学習を進めるようになると思う。

3つ目は、章末にはコラム「歴史大陸」や「すごい大陸」、学習内容のチェック欄があり、単元末には学習内容の整理、確かめと応用、自由研究や科学の本棚、巻末には理科の基本事項などさまざまな設定がある。これらの活用で、科学的な見方、考え方を身につけたり広げたり深めることができると思う。以上の理由で東京書籍を推薦する。

安藏委員

私も東京書籍を推薦したいと思う。

数学同様、非常に優劣つけがたい内容であり、似通った教科書が多いので悩んだ。特に啓林館、学校図書とで悩んだ。数学と同じように、啓林館のマイノートは、とじ込みで1つの内容が充実していて、習熟度により学習を進めることができるようになっている。そして学習のプロセスが、「考えてみよう」、「予想してみよう」、「話し合ってみよう」、「活用してみよう」と、ポイントで学習の方向が示されており、よいと思った。また、学校図書は写真とイラストがわかりやすく、めり張りのあるページづくりで学習がしやすいと思った。

東京書籍も同じような印象だったが、まず目次が見やすかったことと、単元末にある学習内容整理、確かめと応用が使いやすかった。ページ構成もよく、「科学でゴー」や「フロムジャパン」は、日本の科学で日常の事象を科学的に解説し、興味関心を高め

ている点で、東京書籍を推薦したいと思う。

長島委員

私も東京書籍を推薦させていただく。

東京書籍は、グラフと同様、イラスト、写真、図表が他の教科書と比べて豊富で、とても見やすくまとまっている印象を受けた。実験には欠かせないレポートやノートの書き方なども、やはり他社に比べると非常にわかりやすく有効なツールになるのではと感じた。また、理科に必要な実験データなどを表現する力が養われるような工夫が随所にとられている。先ほどもあったが、実験が楽しいという点から見て、理科も苦手意識があると負のスパイラルにはまりやすいと思うが、これも他に比べて写真や絵が効果的に使われているという印象だった。やはり学力的にも問題があるということだったので、教科書会社の変更も必要なのかなという印象はあった。その中でも啓林館は非常に工夫が見られてよいと思ったのだが、東京書籍も、前回の教科書を拝見させていただいたところ、大分改善されているという感じを受けたので、東京書籍を推薦させていただく。

教育長

皆さん東京書籍ということである。私も東京書籍を推薦する。大日本図書もわかりやすくよいとは思ったのだが、最終的には私自身も東京書籍である。理由はほとんど各委員さんにおっしゃっていただいたので、結論だけ申し上げて私の意見とさせていただく。

それでは理科については、皆さん東京書籍ということなので、理科の教科書については東京書籍を採択したいと思う。よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。

それでは、12時を少し過ぎたので、ここで休憩をとりたいと思う。休憩後は、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語という順番で進めさせていただく。休憩時間はおおむね1時間を予定している。1時15分に再開させていただくので、よろしく願います。それでは一旦、休憩とする。

休 憩

教育長

それでは再開する。引き続いて、教科用図書の採択を行いたいと思う。

午前中に理科まで終了したので、音楽の一般から始めたいと思う。音楽は一般と器楽合奏があるので、一般のほうから始める。

内藤委員

私は教育出版を推薦する。

その理由として、まず全体的に題材に関連した多様な情報が掲載され、どれも題材の狙いにふさわしく、よく工夫されていると思う。また、どのページも紙面がカラフルで美しく、見やすく使いやすいよう工夫した構成になっていると思う。例えば「夏の思い出」は、楽譜のページとは別に見開き2ページを使って、歌詞のバックに、尾瀬の風景や、歌詞に出てくる水芭蕉やシャクナゲの花、浮島などの大変美しい写真が掲載され、歌の解説や作者の紹介やコメントなども簡潔に配置されている。このような工夫が、生徒の曲に対するイメージを豊かに広げ、音楽のよさや楽しさを感じさせるのに効果的だと思う。また、我が国や郷土の伝統音楽に対する指導内容も充実していると思う。日本の自然や四季、文化、日本語の持つ美しさ等を味わうような、歌曲、風景、芸能、音楽家のメッセージなどをより多く取り上げ、生徒が我が国の音楽文化に親しみ、愛着を持てるように、さまざまに工夫されていると思う。さらに、目次や各題材の学習目標や課題等も工夫して示されるなど、学習の見通しが立てやすく、生徒の学習意欲を高める上でもよいと思う。以上が主な理由で、教育出版を推薦する。

安藏委員

私も教育出版を推薦したいと思う。

音楽は、選択の視点をどう捉えるかで判断が非常に分かれる教科書だと思ったが、両教科書とも甲乙つけがたい内容だった。教育芸術社の教科書は、日本の伝統芸能に関して幅広く取り上げていた点に魅力を感じた。そして教育出版だが、曲のイメージを写真からできるように大きく取り上げられている。この点は、個人個人の曲イメージが想像的な部分でどうなのかと迷ったが、まだ経験や体験の少ない子供たちにとってはマイナスにならないのではないかと思った。目次なども見やすくつくられており、音楽をより深く理解するためには「発展」の項目がよい取り上げ方だと思い、教育出版に決めた。

長島委員

私は教育芸術社を推薦する。

音楽は、子供の授業などを拝見していても、先生の裁量が非常に大きくて、表現力の指導については先生の方針でされているのがとても色濃いう印象を受けている。教育出版は非常に情報量も豊富で、補助的な記述も多くて、曲に対する興味も湧くような工夫がなされていて、読み物としては非常によいとは思ったのだが、さきほどの理由で、どうしてもイメージが先行してしまう印象を受けた。先生の指導という観点から見ると、教育芸術社のシンプルさであったり全体の構成が、音楽の教科書としてはよいのではないかと思った。

外松委員

私は教育芸術社を推させていただきます。

まず目次だが、1ページに1列のつくりで、そこに目標も書かれており、そこをあげ

ただで、何をこれから学んでいくのかが大変わかりやすいつくりになっている。次のページの「音楽マップ」というところには、学習の目標、学習内容が整理して記載されており、生徒は示されている教材でこれから何を学ぶのかを確認できるつくりであると感じた。合唱、それから創作、鑑賞の3領域がすっきりと色分けされており、目次のページをあけたときに、その領域の意識化にも役に立つようになっている。「学習の窓口」として、学習指導要領の共通事項、相示されている項目、リズムや速度、音色などがアイコンで全て示されていて、各ページの決まった位置に示されている。これも意識化が図られるつくりであると思った。また、歌を歌うための発声の導き方は、図が大変詳しく適切で、どのようにしたら美しい歌声が出せるのか、理解を助けるものとなっている。歌唱教材は、日本で長く歌われ親しまれている歌曲の中から、自然や四季の美しさを感じ取れる「浜辺の歌」、「赤とんぼ」などでは、作詞者の言葉も掲載している。また、情景を忍び想像させる風景写真があった。さらに、歌詞が縦書きの表記もあって、歌の心情、言葉の意味を捉えるのに役立っているつくりである。鑑賞曲の「魔王」は、作曲者の肖像画のみを掲載し、曲をイメージさせるような絵などは載せていない。曲を聞くことを通してのみ、自分なりに曲を理解していく、そのようなつくりになっていた。そこが他社との違いであると思った。また、教科書のつくりだが、中として、どのページも平らに開くことができ使用しやすいと感じる。以上のことから教育芸術社を推したいと思う。

教育長

音楽については、次の器楽合奏もそうなのだが、教育出版と教育芸術社の2社しかないわけであり、どちらかという判断になる。私は結論だけ申すと教育芸術社がいいと思っている。

教育芸術社は、創作の学習について生徒一人一人の創造性を育成するために、創作の学習目標と学習内容を明確に示しているように感じた。創作におけるグループ活動の中で、協力しながら学習を進められるような教材を多く含んでいると思う。また、歌唱、創作、鑑賞と、その教材について、指導事項との関連を音楽学習マップに示している。共通事項との関連を、音楽学習マップと本文の学習目標の横に例示して、共通事項を支えとした学習を確実に行うことができるようにしている点は工夫されているのではないかと思う。どちらをとってもそれぞれ特色もあるし、いいのだろうと思うが、私としては教育芸術社を推薦したいと思っている。

それでは、教育芸術社が3人、教育出版が2人ということになっており、意見が分かれている。少し意見交換ができればと思うがどうか。

安藏委員

私も、どちらも非常に一長一短あり、特に教育出版でなければだめということはない。教育芸術社でもよろしいかと思う。

内藤委員

私も安藏委員と同じように、どうしても教育出版でなければだめということではない。

ほかの方がおっしゃっていたようなすぐれた点が教育芸術社にもたくさん見られると思うので、そちらで結構だと思う。

教育長

それでは、音楽の一般については教育芸術社を採択させていただきたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。
次に、同じ音楽の器楽合奏についてである。今度は安藏委員から願います。

安藏委員

器楽合奏も同じように大変悩んだ。教育出版は、写真が大きく、演奏者の姿勢、構え方がわかりやすくよいと思った。ただ、教科書の内容で気になったのが打楽器である。教育出版が取り上げている打楽器は和太鼓の紹介だけだったが、教育芸術社ではいろいろな打楽器の解説があった。実際に小合奏で使用する楽器は、和太鼓よりも大太鼓、小太鼓、その他の打楽器のほうが多いのではないかと思い、その点を考慮すると、器楽合奏の教科書は教育芸術社を推薦したいと思った。以上である。

長島委員

私は教育出版を推薦する。

器楽の場合は楽器の演奏なので、写真や目で見る資料が理解を非常に助けると思い、その点で教育出版のほうがすぐれていると思った。色などの使い方も見やすく、演奏の仕方が特にわかりやすくつくられていると評価した。安藏委員がおっしゃっていたように、打楽器の部分が非常に気にはなったのだが、全体的に見てということと、打楽器の必要性について理解が浅いという点もあったので、全体的な評価として教育出版を推薦した。

外松委員

私も悩んだのだが、教育出版を推させていただきたいと思う。

表紙裏の口絵のところに、導入として音楽家らのメッセージがあり、音楽への期待、それから学びへのイメージをいざなっていた。また、教科書の前半は楽器の基礎的な知識や奏法をまとめた内容、後半はアンサンブルを中心とした内容になっている。取り上げている楽器は、リコーダー、ギター、箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の7種類である。どの楽器についても大変鮮明な写真や図を多く用い、特に奏法については、アップで、姿勢や指使いがわかるような角度で丁寧に提示されている。特に手の位置がわかるように配慮されており、初めてその楽器に触れ、取り組む生徒にとっては、大変にわか

りやすく心強い教科書だと感じた。

リコーダーを演奏するページには、端に指使い・運指の図が示されており、生徒が自主的に確認し学び、繰り返し練習することができるようなつくりとなっている。また「発展」として、水道管を使った、「手づくりの横笛をつくってみよう」もあり、なかなかよいと思った。

日本の楽器と音楽については、帯年表と写真・説明文で大変丁寧に示されている。箏曲「さくらさくら」の楽譜は、五線譜とは別に縦譜も掲載されている。また、琴で演奏する曲に現代的な音楽を取り入れているところも、生徒たちの興味関心が高まり、よいと思った。資料として、中ごろに和楽器の歴史に関する折り込みページ、巻末にはコード表、運指表のページもある。中学時代に日本の和楽器に触れ、演奏する学習ができることは、心の財の一つであるとも思った。

内藤委員

私は教育出版を推薦する。

その理由としては、特に楽器の奏法の説明が的確でわかりやすいと思うからである。例えば楽器を演奏するときの奏者の姿勢を、両手の形が見えるよう、前と斜めからの全身写真で載せたり、各楽器の演奏のポイントとなる口もとや指先等をクローズアップした大きな写真を載せたり、動きを矢印であらわしたりと、さまざまな配慮が行き届き、大変わかりやすいと思う。また、それぞれの楽器の説明や演奏のポイントなども、写真や図、簡潔な言葉で示されたり、色別にした囲み記事にし、配置を工夫したりと、わかりやすく見やすい紙面構成になっていると思う。また、巻頭や巻末に、それぞれの楽器で現在活躍されている演奏者のメッセージを大きく取り上げたり、折り込みページを使ってダイナミックに日本の楽器や横笛づくりの紹介をするなど、全体的に題材に関連した多様な情報が多く掲載されていてよいと思う。生徒が音楽への理解を深めることができるよう、さまざまに工夫されていると思う。必ずしも授業で取り上げなくても、自学自習でも、楽器演奏への興味関心を深め、音楽のよさを実感させる効果があると思う。主な理由として以上で教育出版を推薦する。

教育長

私も器楽合奏に関しては教育出版がよいと思っていた。理由もそれぞれ各委員さんがおっしゃっていただいたことに尽きると思っている。

音楽の器楽合奏については教育出版を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただきます。

それでは次は美術である。美術は長島委員からよろしく願います。

長島委員

日本文教出版を推薦する。

学んでいく順序と、美術の道具の使い方や安全への配慮がとてもわかりやすくつくられていると感じた。作品の選び方、選定や表記の方法も、他の教科書よりわかりやすく、よかったのではないかと思う。また、一番大きいのは、鑑賞だけではなく、つくったり書いたり、創造性に重点を置いてつくられている感じが見受けられた。美術においてはそのような創造性についても非常に大事だと思ったので、教科書として適切だという感じを受けた。以上である。

外松委員

私も日本文教出版を推させていただきますと思う。

表紙の裏ページだが、折り込みページも使い、「出会って広げよう」のタイトルで、全てゴッホの作品を掲載している。浮世絵との出会いのタイトル作品で「タンギー爺さんの肖像」を掲載し、日本の浮世絵文化がゴッホに影響を与えた説明も載せてある。この辺も、これから先、鑑賞していく上でよいと感じた。また、目次が大変すっきりしている。また、各ページの左端には、目次の分類に基づいた色分けがされていて、わかりやすくなっており、全体的に非常に見やすいつくりとなっていると感じた。それからまた、学ぶタイトルやサブタイトルの言葉が大変的確で、生徒の関心・意欲が高まりそうな言葉を選んでつけられている。提示されている作品の写真が大変鮮明である。また生徒作品には作者の言葉が添えられており、これから学習する生徒にとって参考になりそうだと感じた。また、「デザインの扉を開こう」のコーナーでは、若いデザイナーのインタビュー記事を掲載するなど、美術を広い視野から捉える工夫がされている。

日本文教出版は、学習に役立つ資料も充実しており、教科書として適切であると感じた。以上である。

内藤委員

私は日本文教出版を推薦する。

その理由は主に3つある。1つ目は、題材のつけ方に工夫があり、生徒の興味関心を喚起すると思う。例えば、「自画像を描く」というだけではなく、「私との対話」「あらかずことで見えてくる自分自身」というように、狙いも感じ取れるような題材名になっている。また、題材ごとに取り上げられている作品例も多様で、題材の狙いに合ったすぐれた作品が多く、さまざまな表現があることがわかり、生徒の創作意欲をかき立てると思う。2つ目は、全体的に説明文が簡潔に書かれ、作品例の写真は大きく掲載されているので、学習内容や方法がわかりやすいと思う。また、題材ごとの参考作品として生徒作品と芸術家の作品がバランスよく掲載されている点も、創作活動をする上で効果的だと思う。さらに、それぞれの題材ごとに色調や配置なども工夫されているので、紙面が美しくすっきりとレイアウトされて見やすいと思った。3つ目は、題材ごとに学習課題や、美術における4観点ごとの学びの狙いや活動のポイントも簡潔にわかりやすく示されているところも使いやすい教科書だと思う。以上の理由で日本文教出版を推薦する。

安藏委員

私は開隆堂を推薦したいと思う。

美術についてもそれぞれの教科書で一長一短があると思ったが、特に日本文教出版とで悩んだ。まず教科書のサイズが大き目の日本文教出版だが、やはり大きさを生かして、作品の写真が大きく、非常にインパクトがあるレイアウトで好感が持てた。学びの狙いが最初にあり、それぞれテーマごとの目的がわかりやすく感じたが、開隆堂は單元ごとにテーマ、終わりの振り返り、さらに学習してほしい内容を再確認でき、目的がわかりやすいような気がした。サイズは日本文教出版よりも小さいが、紙面のレイアウトを有効に使っていて、資料や写真も多く、解説とともによい教科書ではないかと思った。以上である。

教育長

私は、美術は日本文教出版がよいのではないかと思った。

全体的に通則部分に力を入れており、生徒たちの興味を喚起する工夫がある。また、引き出し部分を大胆に使って生徒たちの美術への関心が高まる工夫もしている。私も、毎年1月に開かれる生徒の作品展を見ているのだが、練馬区は音楽とともに美術のレベルも高いと思っている。そのような意味では、この日本文教出版の美術の教科書は、練馬区の子供たちのさらなる美術についての向上に向けて展望が開ける教科書ではないかと思っている。私としては日本文教出版を推薦したいと思っている。

こう見ると、日本文教出版が4人の方、そして開隆堂が1人ということである。意見が分かれているので、もし追加のご意見があればお寄せいただければと思うがいかがか。

安藏委員

日本文教出版でもよろしいと思う。

教育長

それでは日本文教出版が4人ということなので、美術については日本文教出版を採択したいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

ではそのようにさせていただく。
続いて保健体育である。外松委員から願います。

外松委員

私は、大修館書店を推薦させていただきたいと思う。

まず、学ぶ項目ごとにクエスチョンで学習の目当てを示しており、項目によってはディスカッションをすることで話し合い活動を促している。表現活動の基礎を高めること

につながると感じた。ディスカッションすることは、そのことを通して、ほかの人の考え方も知ることができ、学びを深められると思う。

運動やスポーツの体への効果というところでは、質問が具体的で学びやすいと思う。一例として、私たちが椅子に座っているときの心拍数は1分間で60から80拍、ではマラソンランナーはおよそ何拍ぐらい？ と尋ね、ヒントのキーワードを幾つか挙げている。図では、心臓の発達、毛細血管の発達、筋肉の発達、筋肉の断面図などが掲載されており、また写真や図はどれも色彩がはっきりとしてわかりやすいと見た。また、心臓が送り出す血液量は、中学生と長距離選手の両方を図式化し、理解しやすいつくりとなっている。次に、けがの応急手当ての項のクエスチョンには、鼻血が出たときの応急手当てで、鼻の穴にティッシュを詰めるというのは誤りだ、それはなぜかと課題を投げかけ、日常起こりやすい体の部位の出血のケースとその対応を、図と文章で具体的に示している。

コラムでは、救命救急に不可欠で、最近では町なかでも見かけるAEDの写真と説明が大変わかりやすく掲載されている。発展学習としても、中学生が実習できるように、具体的な手順を踏んだ写真や説明も紹介されている。別のコラムでは、歯が抜けたとき、やけどをしたときなど、日常、起こり得る可能性が高い問題への正しい対応、処置の仕方について、理解が深まる記述があった。また、トピックでは、日本とオリンピック・パラリンピックのページがある。「心も風邪を引く」のページでは、スクールカウンセラー、それから24時間いじめ相談ダイヤルなど、7つの相談機関を紹介している。これを見ていろいろと意識して対応できる生徒もいるのではないかと思った。また、乱用されるさまざまな薬物では、覚醒剤、LSD、MDMA、コカイン、大麻、抗精神剤の6種類を挙げ、写真や、脳への作用、心身への影響、また俗称であるスピード、ドラゴン、エクスタシー、コーク、マリファナ、ハルシオンなど、それぞれの俗称がわかりやすく一覧表になっている。近年は若い人を対象に、薬物がまるでファッションのようにインターネットや繁華街で扱われており、誰にでも抵抗感なく、いとも簡単に薬物を手に入れることができる時代である。中学生のこの時期に、これからの一生を損なってしまういかなる恐ろしい薬物についてしっかりと学ぶことができ、適していると思った。

構成であるが、「トライ」の最後にある課題は話し合い活動へとつなげられるようになっている。また、4ページ構成の項目の最後のページにある「チャレンジ」は、書き込みのできるつくりで、学びを深めやすいようになっていた。以上の点から大修館書店を推薦する。

内藤委員

私は東京書籍を推薦する。

その理由としては、まず本書は全体的に題材ごとの説明を簡潔にして、判断する貴重で豊富な資料を、写真や図、表、グラフ、コラム記事等々を使い、大変充実させている。生徒が学習内容を理解し、思考を深められるよう、よく工夫されている。自学自習にも活用しやすいと思う。また、題材ごとの学習課程が、全体を通して、「今日の学習」、「やってみよう」、「本文」、「考えてみよう」、「生かそう」という項目で、見開き2ページに整理され、一貫して示されている。そのことで、生徒は学び方が容易にわかり、学習の

見通しが立てやすくなり、主体的な学習を期待することができると思う。さらに「やってみよう」では、書く、話し合う、発表するなどの活動がバランスよく設定され、言語活動の充実が図れるよう工夫されていると思う。加えて各章の終わりには、学びを広げ深めるために、すぐれた資料がたくさん掲載されている。また、学習内容の整理として、確認の問題や活用の問題、学習のまとめとして「学習を振り返ろう」、「日常生活に生かそう」などがあり、確かな学力の定着を図ることなどができるよう、さまざまに工夫されていてよいと思った。以上の理由から東京書籍を推薦する。

安藏委員

私は大日本図書を推薦したいと思う。

学研教育みらいの教科書も非常に内容が多い印象があり、章のまとめ、課題の発展や振り返りがしっかりできている教科書だと思い、悩んだ。しかし、大日本図書は文字サイズなど、めり張りがはっきりしていて非常に見やすく、教科書の大きさを生かしたレイアウトになっていて、内容も系統的に配列され、わかりやすい教科書だと思った。現在使われている点や使いなれている点を踏まえ、大日本図書を推薦したいと思う。

長島委員

私も大日本図書を推薦する。

必要な情報が無駄なくわかりやすく表現されていて、スポーツの魅力を伝えようとする姿勢が強く伝わってきた。気になる性の表記についても、問題もなく、理解しやすい。保健体育の教科書は、教科書という機能のほかに、資料としてもさまざまなことが学べるといった。例えば薬物の実物の写真や原材料の写真なども非常に効果的で、考えられていると思った。そのような観点からも大日本図書を推薦する。

教育長

私は大日本図書を推薦したいと思っている。

非常にコンパクトに要領よくまとまっており、保健分野では喫煙や飲酒、薬物乱用防止の項目、また、今、長島委員からあった性に関する事項、さらに労災や自然災害に関する内容も非常に充実していると思う。幾つか個別に見ていくと、例えばAEDの使用方法については、東京書籍や大修館書店のほうが詳しいわけであり、そういう意味では若干、現実の授業で補っていただかなくてはいけない部分もあるが、私としては総合点で大日本図書を推薦したいと思っている。

さて、そうすると、大日本図書が3人、東京書籍が1人、大修館書店が1人で、意見が分かれているので、もし追加のご意見があればお寄せいただければと思う。

外松委員

保健体育の教科書は4社あり、確かにどこの教科書も、体育分野、保健分野とも、しっかり記載されている。私が特によかったと思った大修館書店は、薬物について6種類を挙げて、先ほど述べさせていただいたが、しかも写真などで非常に丁寧に紹介されている。保健体育の教科書は資料的な部分もあるということを考えて、なかなかよいと思

った。しかし、ほかの教科書も、必要なことはきちっと掲載されている。もう少し詳しく説明が欲しいところについては、現場で先生方が補習していただけたらそれでよいと思うので、こだわるつもりはない。

内藤委員

先ほども申し上げたが、東京書籍は情報量が大変多いということが特徴だと思う。内容面について細々とは説明しないが、大変内容もすぐれたものが多く、子供たちの興味関心を引いて学ぶ意欲を高めるのにふさわしいと思う。そのわりには紙面構成も整理されていて見やすいと思った。ただ、ほかの方がおっしゃっていた大日本図書については、情報量としては少な目にしていて、それを簡潔にあらわしているよさがあるので、保健体育の教科書をどのように活用するかという点で、どちらもすぐれていると思う。大日本図書を推される方が多いということもあるので、私もそちらで結構かと思う。

教育長

ほかにはよろしいか。

それではまとめさせていただきたいと思う。保健体育については、大日本図書を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それではそのようにさせていただく。

続いて、技術・家庭の技術分野である。これは内藤委員からよろしく願います。

内藤委員

私は開隆堂を推薦する。

まず、技術分野の基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるようさまざまな工夫がされていると思う。例えば全体を通して、項目ごとに教科書の見開き2ページの同じ位置に、項目名、学習の目標、作業のやり方などが統一して示され、学習課程が一目でわかるように紙面のレイアウトも工夫されている。また、作業方法の説明が詳しく丁寧で、実習例や参考資料、豆知識などの情報量も多く、生徒の理解がより深まると思う。情報量が多いわりにすっきりとして見やすく、生徒が学習の見通しを立てやすく、使いやすいのではないかと思う。

次に現代社会は、技術の進展が私たちの生活を大変便利で豊かにした反面、地球規模での環境破壊をはじめ、さまざまな問題を生み出している。技術科の学習でも、さまざまな技能や知識を身につけるとともに、このような問題を解決し持続可能な社会をつくるためにさまざまな視点から学ぶことは、未来を担う子供たちこそ大切であると考えている。そのことをこの教科書は大変重視し、巻頭のガイダンスで、生活や社会における技術の役割や、技術の4分野の学習の終わりごとに、その技術の評価と活用という学び

を設定し、生徒に自分の考えを持たせ、互いに話し合わせる活動が設定され、内容も大変充実している点もよい点だと思っている。以上を主な理由として、開隆堂を推薦する。

安藏委員

私は東京書籍を推薦したいと思う。

今、内藤委員からお話があった開隆堂も非常に内容が多い印象で、目次が非常にわかりやすく、よい教科書だと思ったが、東京書籍は巻末に防災手帳があり、実生活に役立つと思った。やはり内容は多く感じたと同時に、学習もガイダンスで詳しく記載されて、工具の使い方、安全に関する事なども詳しく、流れがつかみやすいと思った。また、他社より大きいサイズのメリットを生かし、写真やイラストも大きいのでわかりやすいと思い、東京書籍を推薦する。

長島委員

私も開隆堂を推薦する。

同じく、写真や図、グラフ等がわかりやすい。写真などは小さいにもかかわらず、煩雑にならずにわかりやすく配置している。しっかりとレイアウトされているなど感じた。「やってみよう」や「考えてみよう」、振り返りなども、うまく使うと理解するのにすごく効果的だと感じた。全体的に他社に比べても文字量や情報量も多く感じた。保健体育と同様に、資料集としても十分に使え、いろいろなシーンで復習や調べものに役立つくりになっていると思った。以上である。

外松委員

私も開隆堂を推薦したいと思う。

技術というものは生活の中にあって、これからの私たちの暮らしに大きくかかわっている教科である。先ほどほかの委員の方も述べておられたが、開隆堂は、何を学ぶのかの紙面のつくりが大変わかりやすくなっていると感じた。3年間で学ぶことのガイダンスが丁寧に掲載されている。技術分野で学ぶことのところでは、小学校での学習とのかかわりを知って、3年間で学ぶことの見通しを持つように導かれている。「技術を見つける」では、暮らしの中にある技術に関心を持ち、その役割に気づくようになっている。法隆寺五重塔の心柱の技術が、今の東京スカイツリーに取り入れられていることの紹介もされていた。また、「技術と私たちの生活」では、技術が生活の向上や産業の発展につながっていることに気づかせるようになっている。労力の軽減例では洗濯機、時間の短縮では鉄道の普及、それからエネルギー交換効率の向上のところでは、電球の発達と消費電気の軽減、それから作業の自動化として、手作業から自動化へと変遷を遂げた自動車工場、それから手作業からコンピューター処理で売上を管理することができるという情報の提供。栽培方法の開発では、作物の成長や環境、目的に合わせたさまざまな栽培方法の紹介。また「技術が引き起こした問題と、その解決のために技術が果たす役割に気づく」では、地球環境の破壊、エネルギー資源の枯渇、持続可能な社会の構築、再生可能なエネルギーの開発等、現代的な視点もしっかりと取り込まれている。ガイダンスの終わりには、学習成果の発表例と知的財産についての説明がある。ガイダンスを通し

て、中学生がこれから新しく学ぶ技術分野はどのような学習をするのか。この点が大変よく整理されていて、わかりやすいつくりであると思った。以上である。

教育長

私は東京書籍と開隆堂で悩んだ。教科書冒頭のガイダンスに注目した。技術教科書の各社の姿勢があらわれていると思ったからだ。東京書籍は実習を行う上での安全面について記述している。また、人類の夢を実現するために技術を発展させてきたことも記述している。さらに、これから学ぶ全体像が示され、育ててほしい力、それから問題解決能力をつけることを、技術分野を学ぶ目標として示している。一方、開隆堂は、技術分野で学ぶ4つの領域それぞれについて、小学校で学んだことと結びつけて記述している。また、身近にある技術やその役割について、さまざまな角度から紹介している。さらに技術の学習の進め方と、作業の安全についての記述となっており、導入部として丁寧で内容が充実していると感じた。

次に、現在の技術分野の象徴的な領域である情報に関する技術の中から、情報モラルの取り上げ方について見てみた。東京書籍は6ページにわたって、インターネットや情報機器によってもたらされるプラス面とマイナス面について7つの事例を挙げて説明している。これらの事例を通して生徒たちに考えさせ、情報を安全かつ適切に利用するための心構えを示している。開隆堂は6ページをやはり割いて、情報を扱う際のルールとマナーについて具体例を挙げながら説明している。開隆堂の特色は、説明に加えて、「話し合ってみよう」のコーナーを設け、生徒たちの話し合いを通してルールやマナーを考えさせる場面を設定している。甲乙つけがたいわけであるが、最終的に私としては開隆堂を推薦したいと思っている。

さて、今、各委員のお話を聞くと、開隆堂が4人、東京書籍が1人ということになっている。東京書籍を推した安藏委員、何かご意見があればお寄せいただきたい。

安藏委員

特にない。開隆堂でよろしいかと思う。

教育長

安藏委員はさきほども、開隆堂と東京書籍で迷ったとおっしゃっておられた。

それではまとめたいと思う。技術・家庭の技術分野については、開隆堂を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただきます。

次に技術・家庭の家庭分野についてである。安藏委員から願います。

安藏委員

こちら東京書籍を推薦したいと思う。ただ、今、技術分野が開隆堂ということになり、技術分野と家庭分野の両方が同じ会社となるほうが見やすいのかという点が少しある。その点は少し状況が変わったので何とも言えないのだが、東京書籍は、やはり教科書のサイズから来る配列が非常によいことと、ページが大きく、よさがとても印象に残った。また文字のサイズも、決して大きいわけではないが、めり張りがしっかりしていて読みやすく感じた。内容では、絵の導入、基本ページ、あと学習の流れがわかりやすい。また、巻末の作品がすぐ開くことができ、言葉のページでは用語の解説があって理解しやすいと思った。以上である。

長島委員

私は開隆堂を推薦する。

技術分野と同様に、写真や図表があって、とても理解しやすい。家庭科にとっては大切だと思うのだが、実際につくったり行動に移す際の助けになるようによく考えられて、イラストなどが効果的に使われていると思った。また「学習の参考」という専門家のコラムも非常に効果的で、理解を促すにはとてもよいのではないかと思った。各単元で知っておかなければいけないポイントがよくまとまっていて、そうした意味でも開隆堂を推薦する。以上である。

外松委員

私は開隆堂を推薦させていただきたいと思う。

まず作りであるが、目次がすっきりと見やすく、これから何を学ぶのかが捉えやすくなっていると思った。ページの下の方には、本文と関連する資料が豆知識として非常に多く掲載されている。各章の終わりに学習のまとめのページがあるが、それは直接書き込めるスタイルなので、授業では大変扱いやすいと感じた。

内容だが、これからの私と家族との関係では、家族の形態の変化に対しても、図も示し、多様になっている現実を説明している。また、養子縁組と里親制度の説明も載せてあった。参考として、中学生のとき東日本大震災を体験した人の作文と、その母親のコメントも掲載されている。家族について生徒たちが話し合いをすることのできる作りになっているのではないかと思う。食生活と自立では、食事の役割について考える導入ページで、宇宙飛行士、野口聡一さん、生物学者、福岡伸一さんからのメッセージとして、「食べるとは」という根源的な問いかけが紹介されている。食べるという行為はごく日常的なことであるが、健康に生きていく上で大切なことである。中学生のこの時期に、広く世界で仕事をされている方からのメッセージは、学習指導要領の目標にもかかっていると感じた。よりよい消費生活のための章では、受験の学習教材を購入したのだけでも、届いた教材が自分には適しておらず解約したいという中学生を例にして、クーリングオフの例が示され、はがきでの解除通知を書くようになっている。大变身近な、今後、中学生たちに起こり得る可能性の高い事例であり、自立した生活を送る上で生きた教材であると思った。選択でもある生活の課題と実践のところでは、課題学習の進め方の例に、安全と省資源・省エネルギーを考えた課題が提示されており、教育基本法の、

生命を尊び自然を大切に環境の保全に寄与する態度を養うことということにもかかっていると思った。研究のコーナーでは、現在の「イクメン」のことや、東日本大震災取材したジャーナリストからなど、さまざまな分野の方からの話が取り上げられていて大変参考になると思った。以上の点から開隆堂を推薦したいと思う。

内藤委員

2社とも、将来の自立に向け、よりよい生活をする上で大変参考になり、大切な情報がたくさん掲載されたすぐれた教科書であったと思う。あえて選べば開隆堂を推薦したいと思う。

その理由としては、まず家庭科の目標である、生活の自立に必要な基礎的・基本的知識や技能が確実に習得できるようさまざまに工夫されていると思う。例えば、項目ごとの学習の目当てや課題が明確に示され、学習の流れや作業の手順と様子が、適切なイラストや写真、言葉を使って丁寧に説明されていて、生徒にとってわかりやすく使いやすいと思う。また、すぐれた内容の参考資料が大変豊富に掲載され、興味関心を高め、授業以外でも、将来にわたっても活用できるすぐれた内容の図書だと思う。

次に、よりよく生活する上での本質的課題が生徒に意識化されるよう、さまざまに工夫されていると思う。例えば冒頭に、「自立に向かって、共生社会に向かって、持続可能な社会に向かって、人や物とかがわりながら学ぼう」と大きく掲載し、全体を通して、持続可能な社会や健全な家族社会の形成、賢い消費者の育成などを色濃く打ち出していると感じた。そのために、全体的に多様な視点から貴重な情報を豊富に掲載している。例えば食育に関しては、先ほど外松委員からあったように、コラムに、現在活躍中の宇宙飛行士、スポーツ管理栄養士、科学者の話など、大変貴重な内容で生徒も興味があり心に響くと思う。さらに保育の話では、最近できた認定こども園など、需要の高まる分野の新しい情報などもいち早く取り入れている点もすぐれていると思った。以上を主な理由として開隆堂を推薦する。

教育長

私は、家庭分野についても開隆堂が東京書籍で迷った。技術分野と同じように教科書冒頭のガイダンスに着目すると、東京書籍は、自分の生活について振り返って課題を把握するためのシートがあり、課題発見から解決に至るまでの家庭分野の学習の進め方がよくわかるように工夫されていた。生徒自身が家族と地域での生活を考える手だてとなる内容が、よく整理されて記載されている。一方、開隆堂では、小学校で学習した家庭科と関連づけて、中学校家庭分野の内容を写真などを使ってわかりやすく示している。自立、共生社会、持続可能な社会など、これから学ぶ上でのキーワードをわかりやすく提示している。

また、東京書籍では、衣食住の領域を先に学び、その後で、家族、育児、消費生活、環境配慮が続くが、開隆堂ではまず最初に家族、家庭と子供の成長について学び、その後で、衣食住、消費生活、環境の順番となっている。特に開隆堂では、「子供の成長と地域」という分野の単元において、子育てや幼児教育に関するさまざまな施設の紹介があり、中学生に対し、地域の身近なところとして、保育園や幼稚園だけでなく、子育て相

談や一時保育、虐待などを扱う児童相談所などにも関心を持たせる意味で、すぐれていると感じた。以上、2社、それぞれにより点があるわけだが、総合点で私としては開隆堂を推したいと思っている。

さて、お一方だけ東京書籍ということである。安藏委員、よろしいか。

安藏委員

はい。

教育長

それでは家庭分野については開隆堂を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それではそのようにさせていただく。

いよいよ最後の種目である英語に移る。長島委員から願います。

長島委員

私は三省堂を推薦する。

私は個人的に英語が非常に苦手なのだが、6社を比べた中で、三省堂が一番英語が苦手な私が興味を持ちやすいつくりになっていると思った。特に1年生の段階で英語が苦手になってしまうと、もう2年生、3年生はなかなか取り戻すのが大変だと思うのだが、1年生の段階で英語に興味が行くような教科書の構成になっていると思った。3年生までも比較的、文字間隔が広く、字も大き目である。英作文のつくり方や会話についても、比較的勉強しやすい構成になっている感じを受けた。正直、各社とも、甲乙つけがたいところではあるのだが、全体的に見て三省堂を推薦させていただきたいと思う。

外松委員

私は東京書籍を推薦させていただきたいと思う。

英語を通して、文化、言語、それに対する理解を深めて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るということで、4つの、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、その基礎を養うという目標が掲げられている。その目標を考えたときに、東京書籍が、中学の第1学年では小学校の英語の復習と中学校の導入というところにも力を注いで、中学生となって新たな気持ちで英語学習に取り組もうとしている子供たちの気持ちに寄り添ったつくりであると思った。また、デイリーシーンのところでは、日常生活のさまざまな場面におけるコミュニケーションを学ぶようになっているのだが、このシーンは、日本人の母、アメリカ人の父を持つ、英語のインターナショナルスクールに通う少女を主人公として、第1学年から第3学年までを通したストーリーになっている。生徒には親しみを持って学べるつくりではないかと思った。ユニットの後ろのほ

うには学び方コーナーもある。第1学年では、単語の書き方、文の書き方、辞書の使い方、音の変化、発音記号等が詳細に掲載されており、英語学習のコツをつかめるのではないかと思った。まとめと練習のコーナーでは、be動詞、一般動詞、代名詞等、文法の整理と復習ができるつくりで、復習したい、自主的に学びたい生徒たちの気持ちに沿った、適したつくりであると思う。アクティビティーや学習した事項の確認のためのリスニング活動もある。いろいろな意味でいいのではないかと考えている。英語の歌も4曲掲載されている。最後のほうには資料編として、学んだ単語の一覧や、補充単語、表現集等もあった。これから先、英語は非常に力を入れて学習していく教科であると思うので、特に表現力が培われるような構成の、この東京書籍はよいのではないかと考えている。以上である。

内藤委員

私も東京書籍を推薦したいと思う。

その理由は主に3つある。まず中学校入学当初、特に生徒の学力の個人差が大きい教科が外国語だと思われる。そのため、東京書籍は、特に1年生の初めは小学校の復習から中学校の学習に無理なくつながるよう、CDなどの音声も使い、段階的に丁寧に指導するよう配慮した構成になっていて、よいと思う。2つ目は、基礎的・基本的事項の確実な定着を図る工夫もすぐれていると思う。例えば、パートごとの題材の場面設定が、生徒の身近な生活に即したものが多く、それにふさわしいイラストや写真を大きく載せ、興味関心を喚起したり、例文や課題を精選して、学ぶ意欲を高めたりしていると思う。また、パートごとの学習課程の中に、学習目標、課題、例文の読解、基本文形確認、基本練習など、聞く、話す、読む、書くの活動が必ず示されていて、4つの技能をバランスよく向上させるよう工夫している。これらの工夫で、基礎的・基本的事項の定着が図れると思う。3つ目としては、各ユニットの終わりにはデイリーシーンという活動があり、学んだことを場面別のコミュニケーションを通して実際に使ったり、プレゼンテーションという活動では、テーマ別の自己表現活動を通して実際に自分の考えを発信したりするなど、さまざまな体験活動が設定されている。活用力・実践力の育成が図れるようになっていると思う。以上の理由で東京書籍を推薦する。

安藏委員

私は三省堂を推薦したいと思う。

英語は、教育出版、東京書籍等も学習を進めやすいとは思ったが、三省堂の教科書は写真やイラストが多く、学習する文章およびイラスト、写真などが整理されたレイアウトで好感が持てた。それぞれのパートで学習ポイントの表示がわかりやすく感じた。読み物も多く、興味関心が湧くように思え、レッスンの初めに学ぶことがわかり、「Get」、「Use」で段階的に学習するようになっていて、系統的に学習していけるような内容ではないかと思い、三省堂を推薦する。

教育長

英語について、私はまず、単元、教材および学習のポイントが明確であるかという点

と、基礎的・基本的な知識および技能を習得でき、いわゆる聞く、話す、読む、書くの4技能を統合的に活用する学習が設定されているかどうかの観点を重視して読ませていただいた。その結果、東京書籍と学校図書の教科書がよいのではないかと思った。

まず東京書籍は、初めにユニット、次にデイリーシーン、そしてプレゼンテーションの3部構成になっていて、4つの技能を総合的に育成できる学習の流れになっている。デイリーシーンでは、ユニットで学んだ内容を取り入れた、ある日常の一場面を設定し、学習内容の定着と活用を図っている。また、各構成に技能別の練習問題が配されていて、4つの技能がそれぞれ重点化されながら、適宜、繰り越されるようになっている。これらを繰り返し学習することで、基礎・基本を着実に定着できるのではないかと考えた。さらに、学力調査の結果から、今の生徒は書くことに関する正答率が他の領域に比べ低い結果となっているが、東京書籍は、書く領域に関するページの割合が他社に比べて非常に高いということも特徴としてあった。

一方、学校図書については、目標の配列が、やさしいものから難しいものへとなるよううまく工夫されていて、各レッスンにはアクティビティーが設定されて、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるための活動ができる内容となっている。また、前のセクションで学習した事項を、その後のセクションやコーナーにできるだけ盛り込んで、繰り返し使用できるように工夫されている。また、レッスンの最後のレビューで、レッスンで学習したことをすぐに復習・確認することができ、基礎・基本の定着を図ることができるのではないかと思う。また、4つの技能を統合的に活用するように設定されているページが他社と比べて多いのも学校図書の特色であった。

以上、2つの会社で悩んだのだが、最終的には、総合的に東京書籍がよいのではないかと考えている。私としては東京書籍を推薦したいと思っている。

さて、東京書籍が3人、三省堂が2人ということであるが、追加のご意見がもしあれば、お寄せいただければと思う。

安藏委員

特になし。東京書籍でよろしいかと思う。

長島委員

私も同様である。東京書籍は先ほどの教育長のご説明にもあったのだが、アウトプットの書くという行為にとっても力を入れているという印象があった。国語もそうだが、やはりアウトプットが一番勉強には役立つ。それに必要なインプットが求められてくるので、そういう意味でも東京書籍でよろしいのではないかと思った。

教育長

ほかにはよろしいか。

それでは、今、安藏委員と長島委員からのご発言もあったので、英語については東京書籍を採択したいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。
お疲れさまであった。以上で全種目の採択が終了した。
全種目の採択した発行者を確認する。

国語は株式会社三省堂、
書写は光村図書出版株式会社、
社会（地理的分野）は株式会社帝国書院、
社会（歴史的分野）は教育出版株式会社、
社会（公民的分野）は東京書籍株式会社、
地図は株式会社帝国書院、
数学は株式会社新興出版社啓林館、
理科は東京書籍株式会社、
音楽（一般）は株式会社教育芸術社、
音楽（器楽合奏）は教育出版株式会社、
美術は日本文教出版株式会社、
保健体育は大日本図書株式会社、
技術・家庭（技術分野）は開隆堂出版株式会社、
技術・家庭（家庭分野）は開隆堂出版株式会社、
英語は東京書籍株式会社である。

以上を採択するという事によろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、議案第37号については、先ほど種目ごとに述べた発行者の教科用図書を採択する。

以上で、第15回教育委員会定例会を終了する。